

名張市男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

令和2年9月

名 張 市

目 次

I	市民意識調査の概要	1
II	回答者の属性	2
	1. あなた自身のことについて	2
	(1) 性別	2
	(2) 年齢別	2
	(3) 職業別	2
	(4) 家族構成	3
III	市民意識調査結果	4
	2. 男女平等意識・男女共同参画について	4
	3. 家庭生活について	8
	4. 就労・職業について	14
	5. 女性の社会参画について	20
	6. 男女の人権について	22
IV	資料	27
	市民意識調査票	27

I 市民意識調査の概要

1. 調査目的

名張市では、男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みを行っています。この調査は、男女共同参画に関する市民の意識や実態、ニーズを把握し、第2次男女共同参画基本計画策定見直しの基礎資料とするとともに、今後の男女共同参画推進のための施策に反映させることを目的とします。

2. 調査対象

名張市内在住の20歳以上の男女 1,516名
(住民基本台帳より無作為抽出)

3. 調査方法及び実施期間

調査方法：郵送配布、郵送回収

実施期間：令和2年4月10日から5月15日まで

4. 回収状況

対象数	1,516人
有効回収数	619人
有効回収率	40.8%

5. 調査内容

- ・ 男女平等意識・男女共同参画について
- ・ 家庭生活について
- ・ 就労・職業について
- ・ 女性の社会参画について
- ・ 男女の人権について

6. 調査結果の表示方法

(1) 集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入していますので、内訳の合計が100%にならない場合があります。

(2) 複数回答の設問の場合、各設問の有効回答数(N)を基数とし回答比率の算出をしています。

$$\text{※ 回答比率 (\%)} = \text{回答数} / \text{N} \times 100$$

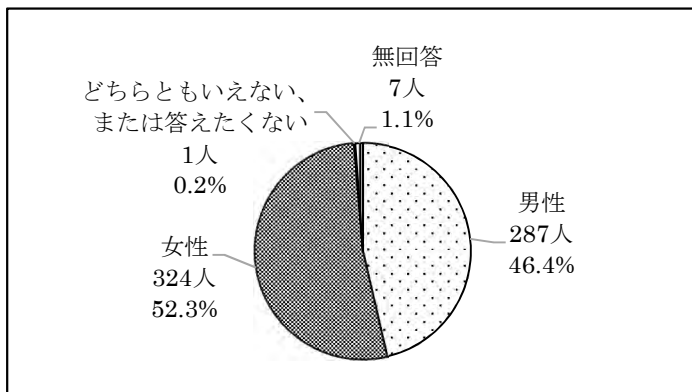
(3) グラフ中の選択肢の記述については、実際の選択肢の表現を簡略化している場合があります。

(4) 性別について、「どちらともいえない」、「無回答」の回答は「全体」のみに含んでいます。

II 回答者の属性

1. あなた自身のことについて

問1. 性別

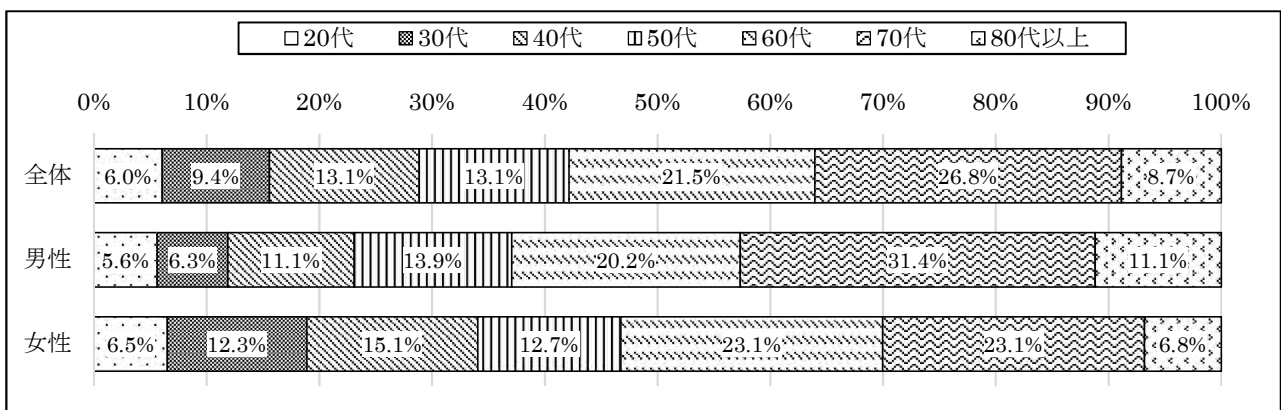


回答者の性別構成比は、「男性」46.4%、「女性」52.3%と半数となっています。

問2. 年齢別

全体の回答者の年齢層は、60代から70代が多くなっています。

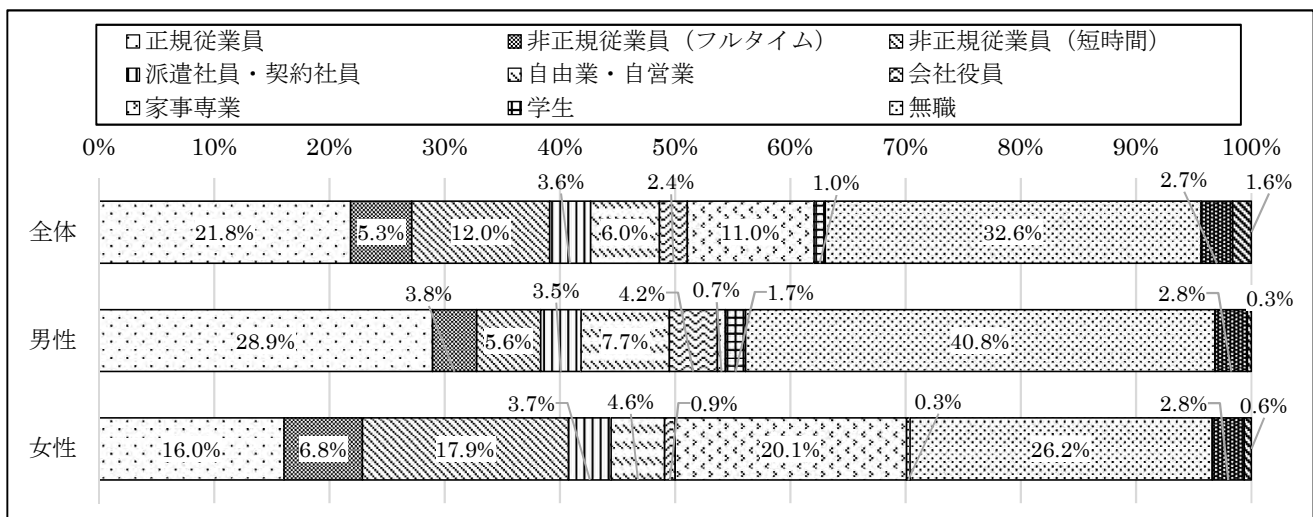
男性では70代が31.4%と一番多く、女性では60代、70代がともに23.1%と一番多くなっています。



問3. 職業別

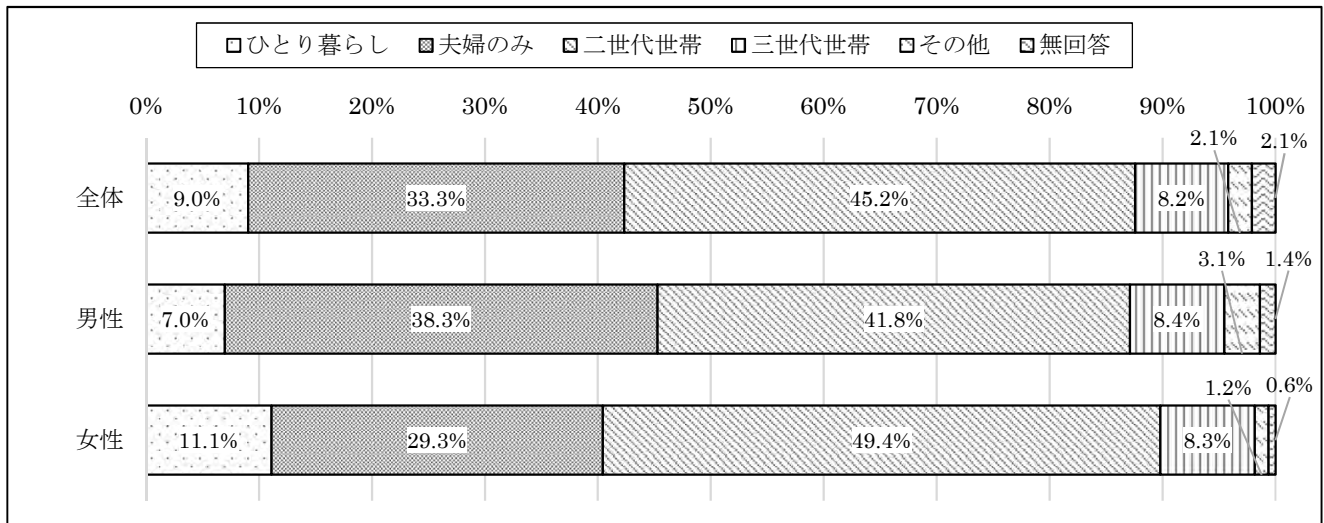
職業別では、回答者の年齢層が高いこともあり「無職」が32.6%と一番多くなっています。

「無職」を除くと、全体では「正規従業員」が21.8%、次いで「非正規従業員（短時間）」が12.0%となっています。男性では「正規従業員」が28.9%と一番多く、女性では「家事専業」が20.1%と一番多くなっています。



問4. 家族構成

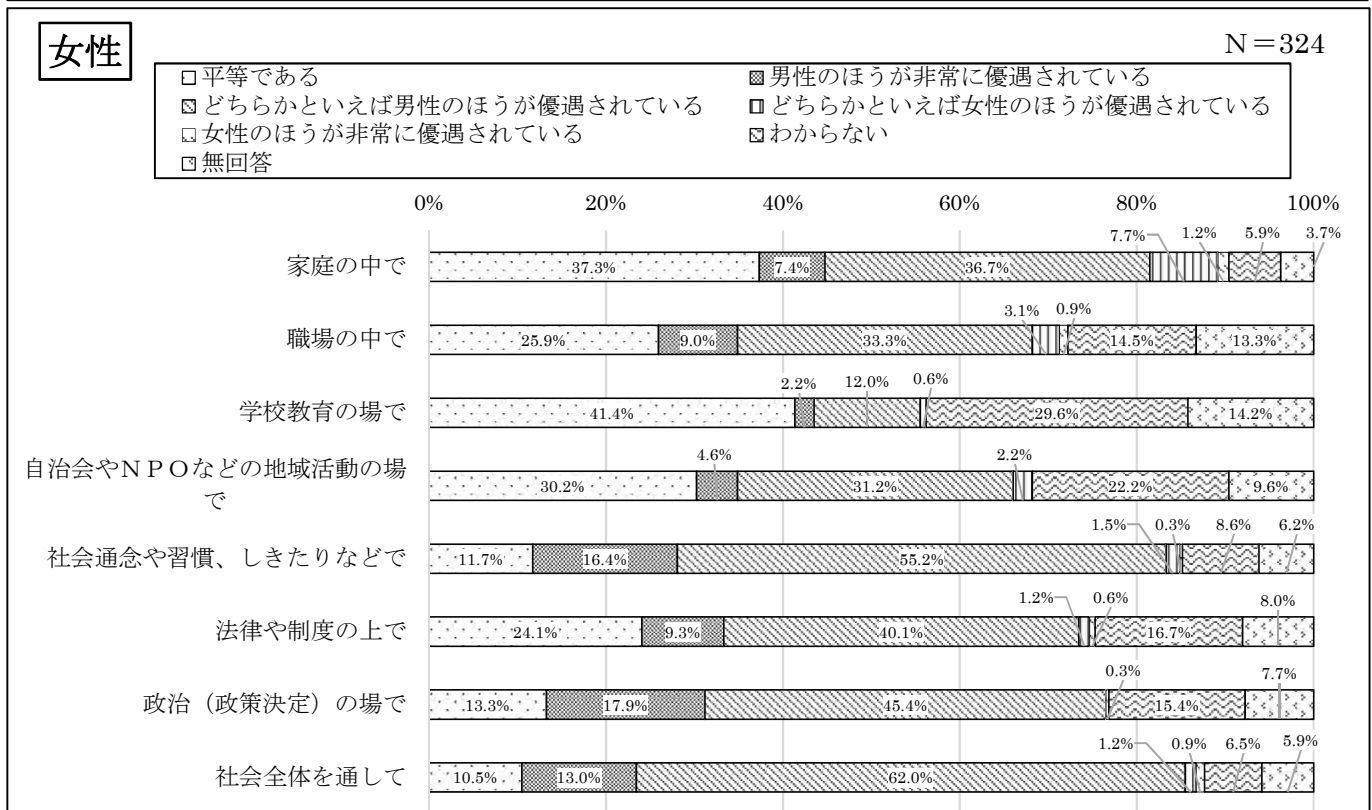
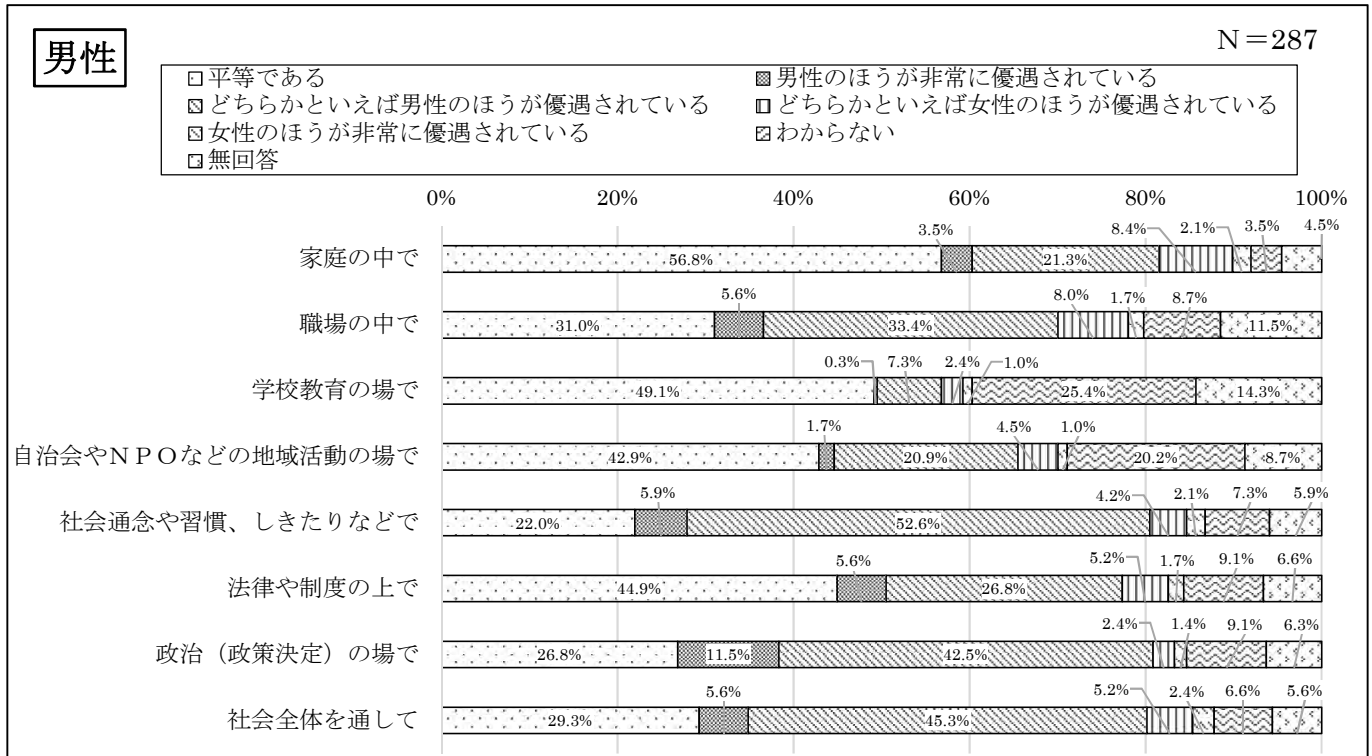
家族構成の全体では、「二世世代世帯」が、45.2%と一番多く、次いで「夫婦のみ」が33.3%となっています。



で」6.1ポイント、「政治の場で」0.8ポイント、「社会全体を通して」5.5ポイント増加しています。

「男性が優遇されている（男性の方が非常に優遇されている＋どちらかと言えば男性の方が優遇されている）」と思う分野では、「社会通念や慣習、しきたりなどで」と答えた人が最も多く65.1%、次いで「社会全体で」が63.4%となっています。

また、「女性が優遇されている（女性の方が非常に優遇されている＋どちらかと言えば女性の方が優遇されている）」と思う分野では、「家庭の中で」と答えた人が最も多く9.7%、次いで「職場の中で」が6.6%となっており、全体を通して、各分野で「男性が優遇されている」と答えた割合の方が「女性が優遇されている」と答えた割合より高くなっています。

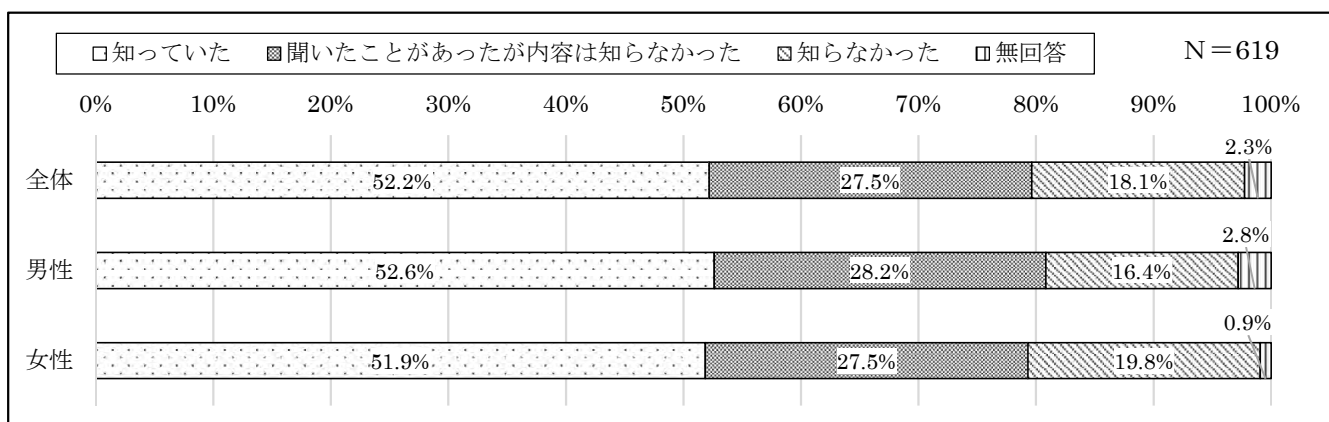


男女別で比較すると、「平等」と回答した割合について、男性で一番高いのが「家庭の中で」56.8%、次いで「学校教育の場で」49.1%、「法律や制度の上で」44.9%となっています。一方、女性で一番高いのが「学校教育の場で」41.4%、次いで「家庭の中で」37.3%、「自治会やNPOなどの地域活動の場で」30.2%となっています。

しかし、8項目すべてにおいて、男性に比べ女性の方が「男性が優遇されている（男性の方が非常に優遇されている＋どちらかと言えば男性の方が優遇されている）」と回答した人が多くなっています。

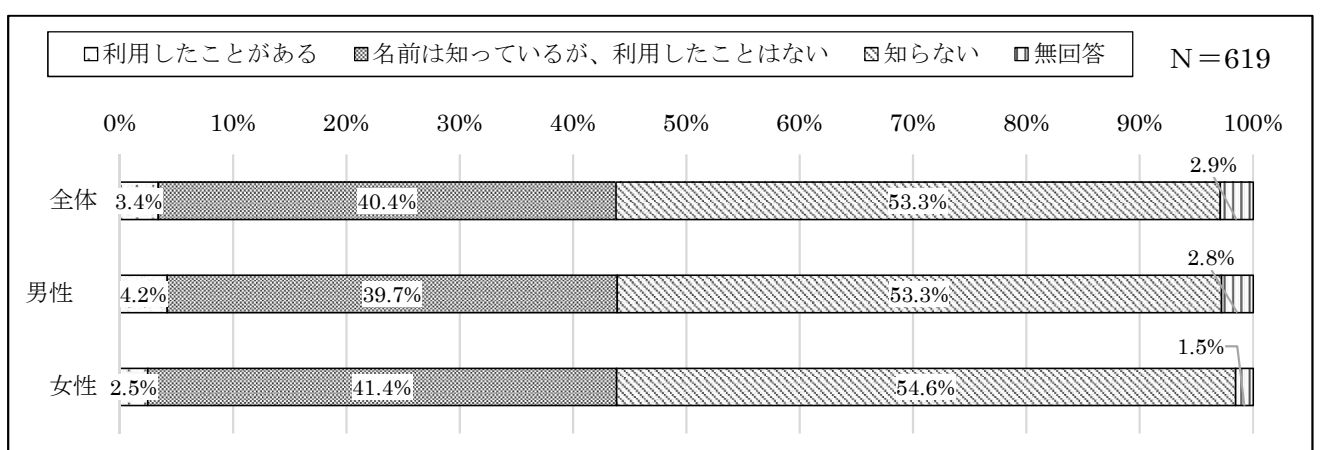
また、「女性が優遇されている（女性の方が非常に優遇されている＋どちらかと言えば女性の方が優遇されている）」と思う分野で最も多かったのが、男女共に「家庭の中で」と答えた人で、男性10.5%、女性8.9%となっています。

問6. あなたは、「男女共同参画」という言葉を知っていましたか。



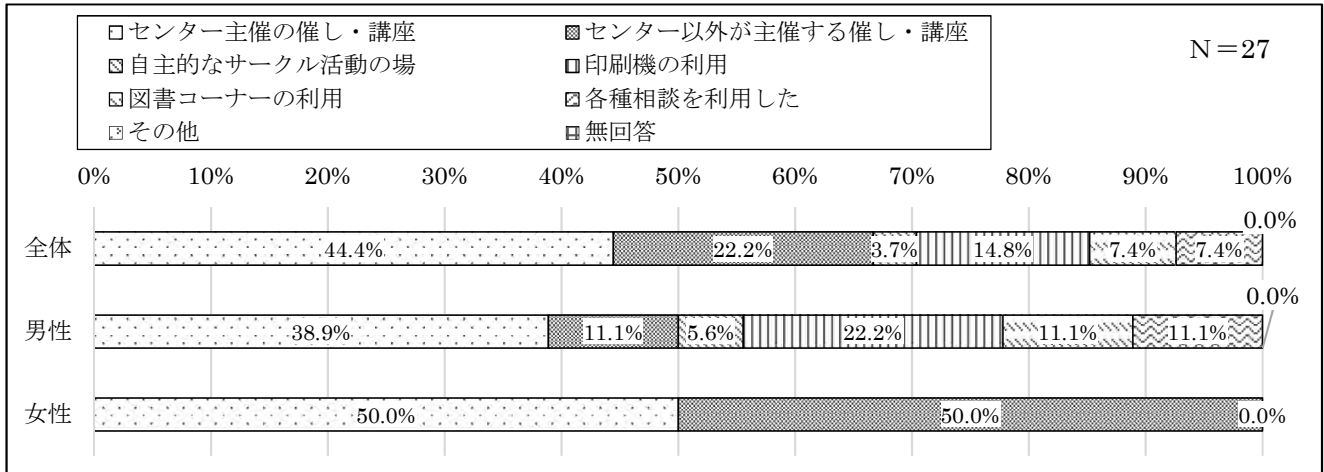
「男女共同参画」という言葉の認知度について、全体では「知っていた」と答えた人が52.2%、「聞いたことがあったが内容は知らなかった」と答えた人が27.5%と、半数以上の方が「男女共同」という言葉を知っているという結果になりました。

問7. あなたは「名張市男女共同参画センター」をご存知ですか。



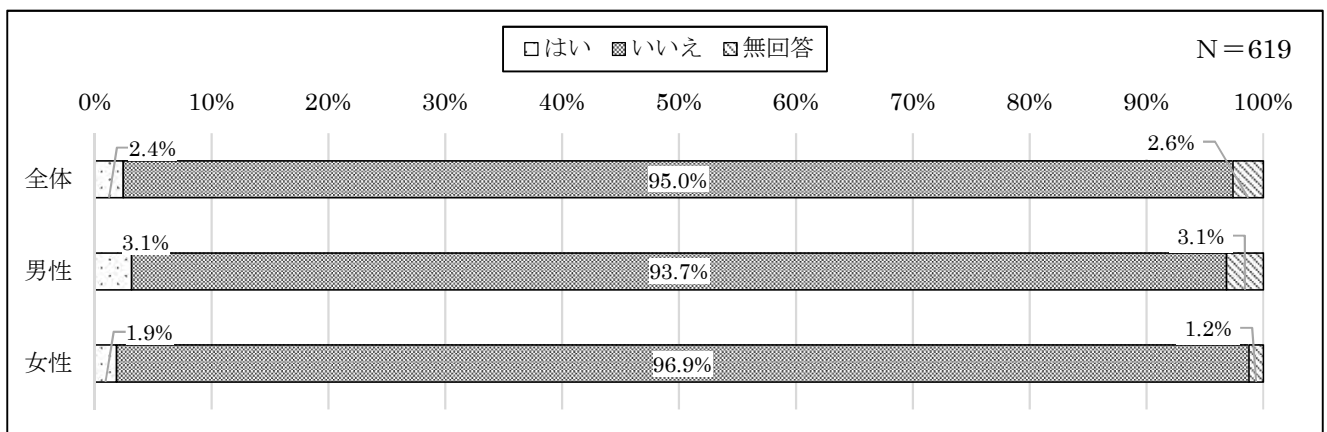
「名張市男女共同参画センター」の認知度については、全体では「利用したことがある」と答えた人が3.4%、「知らない」と答えた人が53.3%と半数を占めており、認知度が低いことが伺えます。

問 8. (問 7 で「利用したことがある」と答えた方にお伺いします。)
 どのように利用しましたか。



名張市男女共同参画センターの利用内容については、主に「センター主催の催し・講座」で利用すると答えた人が最も多く 44.4%、次いで「センター以外が主催する催し・講座」が 22.2%となっており、会議や講座の会場として使用する場合が多いことが伺えます。

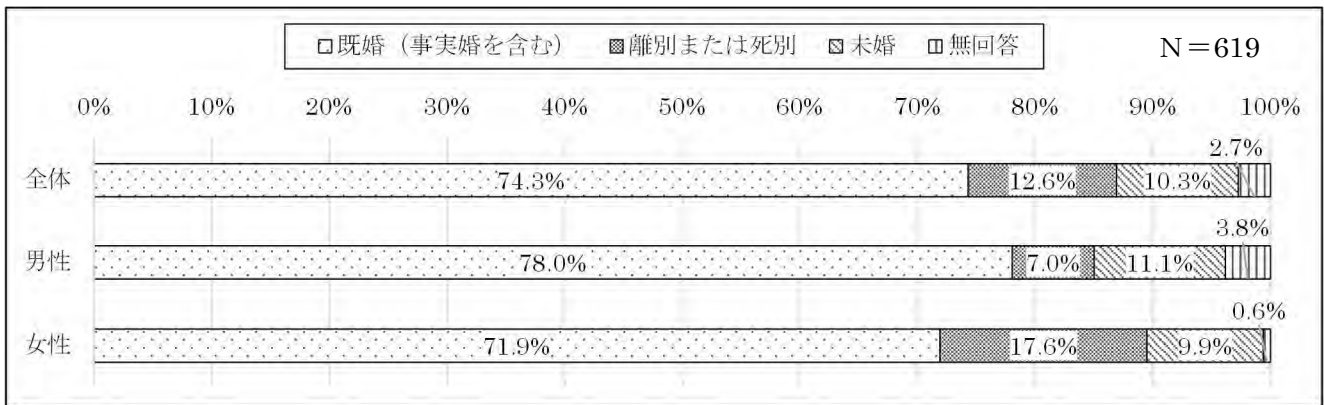
問 9. あなたは「名張市男女共同参画センター」のホームページをご覧になったことがありますか。



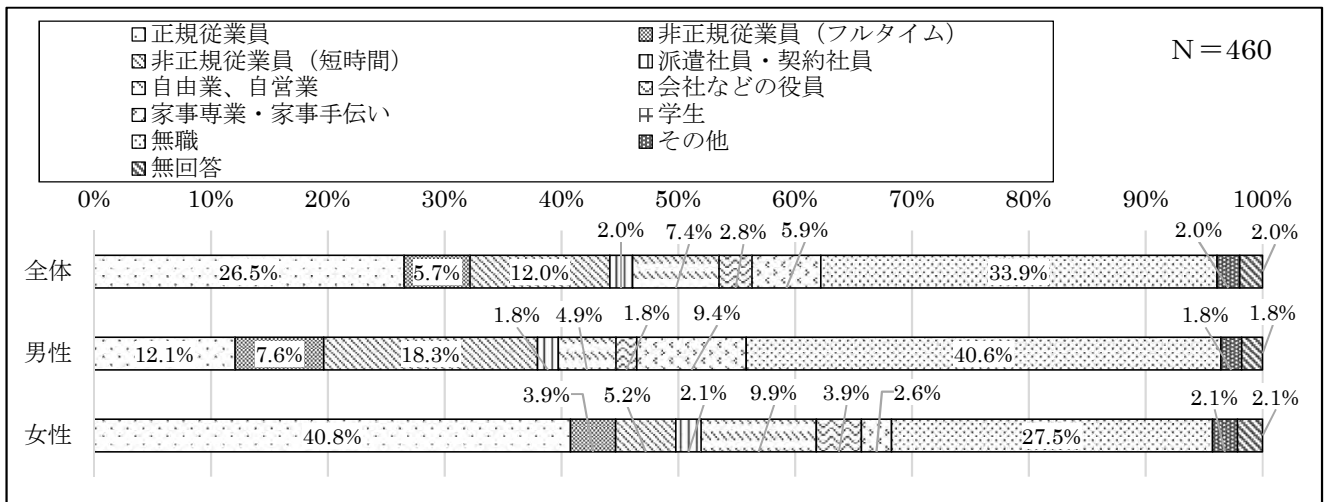
「名張市男女共同参画センター」のホームページを見たことがあるかについて、見たことがないと答えた人が 95.0%となっており、センターの認知度と同様にホームページの認知度も低いことが伺えます。

3. 家庭生活について

問10. あなたは結婚していますか。



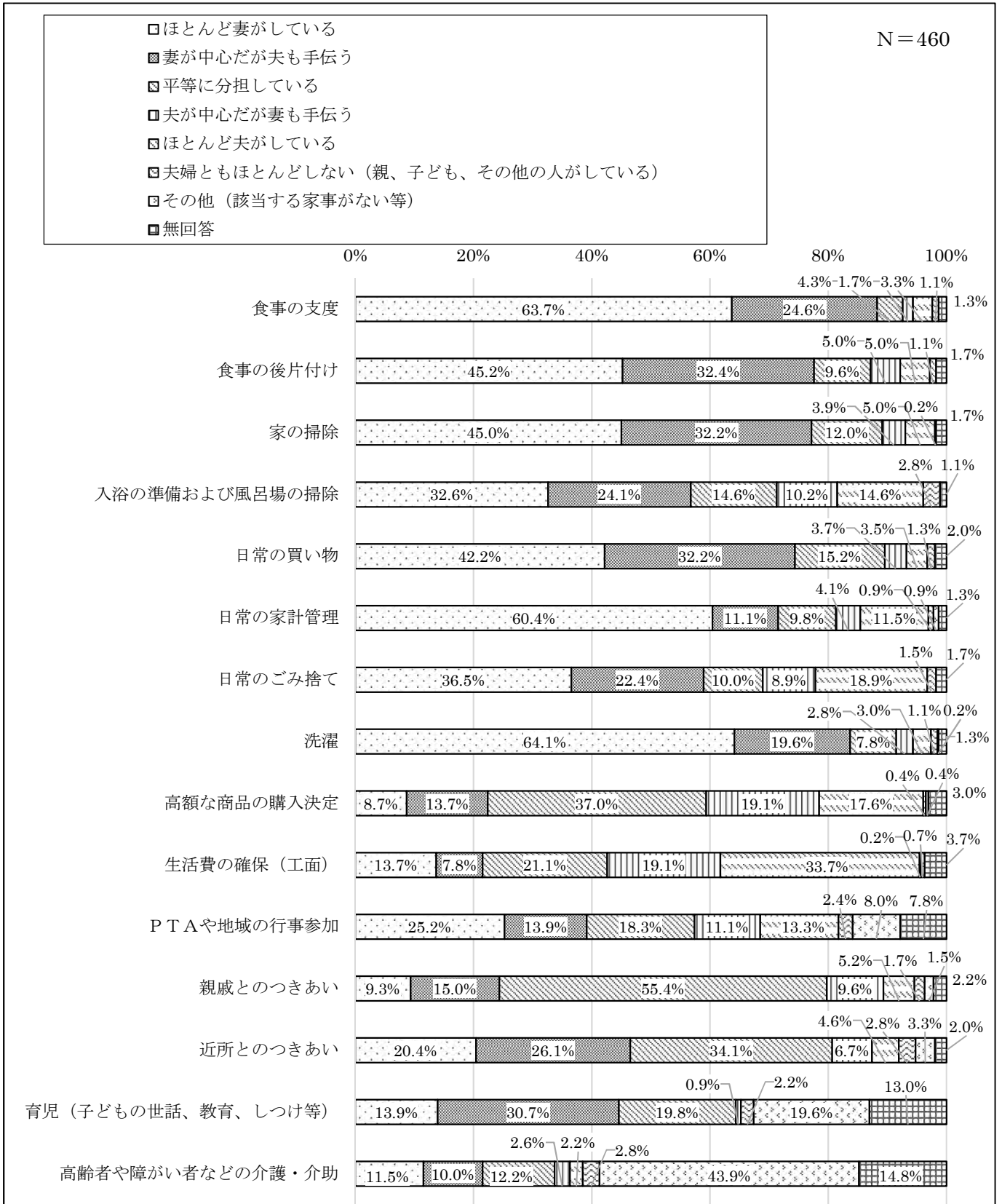
問11. (問10で「既婚 (事実婚を含む)」と答えた方にお伺いします。) 配偶者の就業形態をお答えください。



アンケート回答者の約7割が既婚者で、配偶者の就業形態については、配偶者が女性の場合、「正規従業員」が12.1%、「非正規従業員 (フルタイム、短時間)」が25.9%、配偶者が男性の場合、「正規従業員」が40.8%、「非正規従業員 (フルタイム・短時間)」が9.1%となっており、既婚女性の就業形態としては非正規従業員として働く人が多くなっています。

問12. (問10で「既婚(事実婚を含む)」と答えた方にお伺いします。)

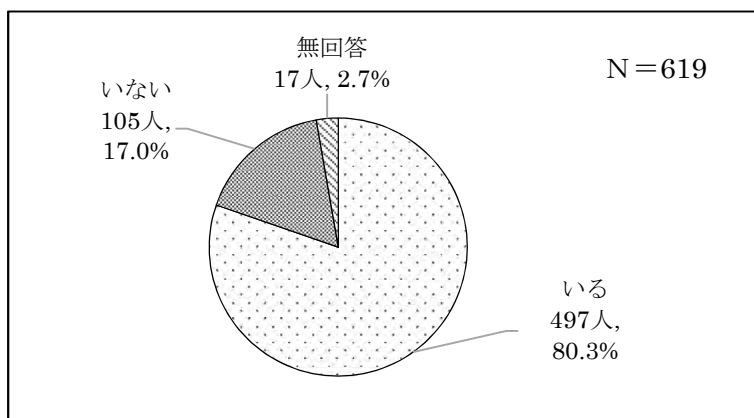
各分野において、夫婦の間でどのように行っていますか。



家庭生活における家事の役割分担では、食事の支度や片づけ、掃除、洗濯などの日常的な家事は「妻が行っている(ほとんど妻がしている+妻が中心だが夫も手伝う)」と答えた割合が高く、5割以上を占めています。前回調査(平成26年)に比べると、食事の支度や片づけ、掃除、洗濯などの日常的な家事において「妻」と答えた割合は減少し、「平等に分担している」と答えた割合が少し増加しています。

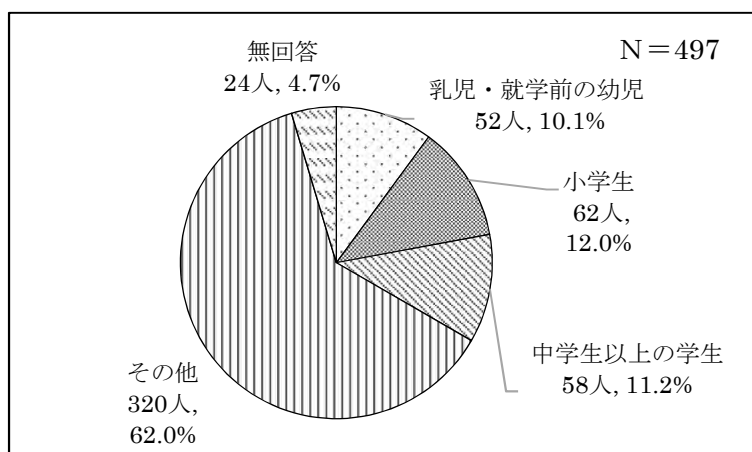
また、「夫が行っている（夫が中心だが妻も手伝う+ほとんど夫がしている）」と答えた方が最も多かった家事は、「生活費の確保」で52.8%、次いで「高額な商品の購入決定」で36.7%となっており、責任が伴う家事や役割は夫が担っていることが伺えます。

問13. あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。



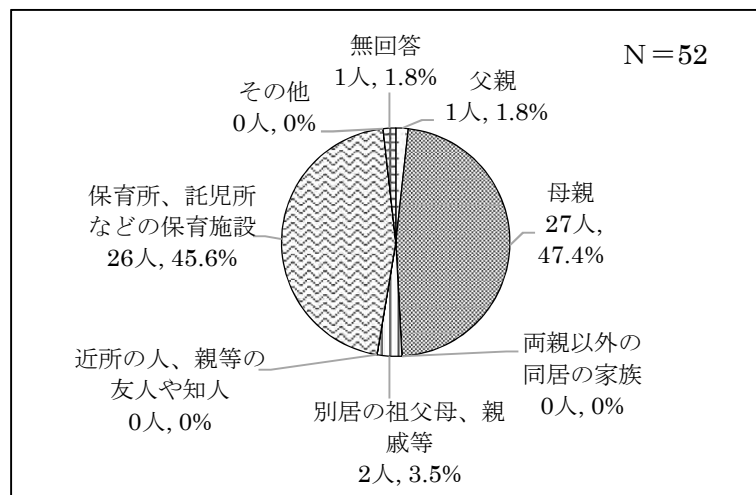
回答者のうち、80.3%の人がお子さんがいるという回答でした。

問14. あなたのお子さんは、現在、おいくつですか。



回答者の年齢層が高いことから、「その他」と答えた人が最も多く62%、「乳児・就学前の幼児」、「小学生」、「中学生以上の学生」と答えた人はそれぞれ約10%となりました。

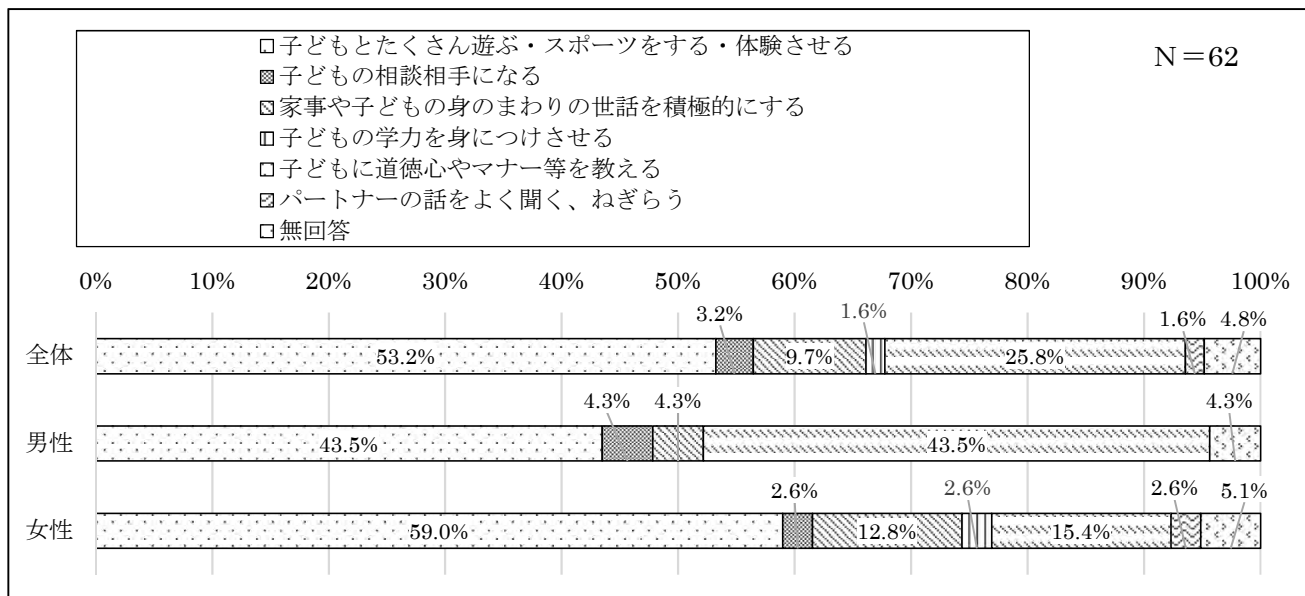
問15. (問14で「1. 乳児・就学前の幼児」と答えた方にお伺いします。) 平日の日中、その乳児・就学前の幼児を主に誰が養育していますか。



主に「母親」と答えた人が47.4%と一番多く、次いで「保育所、託児所などの保育施設」が45.6%となっています。

問16. (問14で「2. 小学生」と答えた方にお伺いします。)

子育てやしつけに関する事項のうち、あなたが父親の場合は、何に最も力を入れたいですか。また、あなたが母親の場合は、父親にどんなことに最も力を入れてほしいですか。

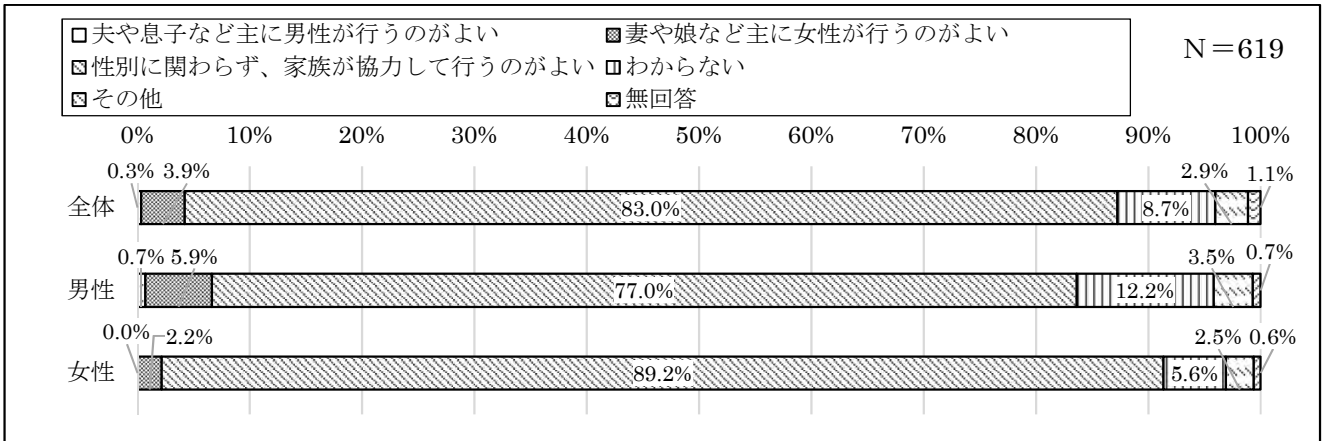


子育てやしつけに関して、全体では「子どもとたくさん遊ぶ・スポーツをする・体験させる」と答えた人が最も多く 53.2%、次いで「子どもに道徳心やマナー等を教える」が 25.8% となっています。

父親の回答で最も多かったのは「子どもとたくさん遊ぶ・スポーツをする・体験させる」、「子どもに道徳心やマナー等を教える」で、ともに 43.5%、次いで「子どもの相談相手になる」、「家事や子どもの身のまわりの世話を積極的にする」が 4.3% となっています。

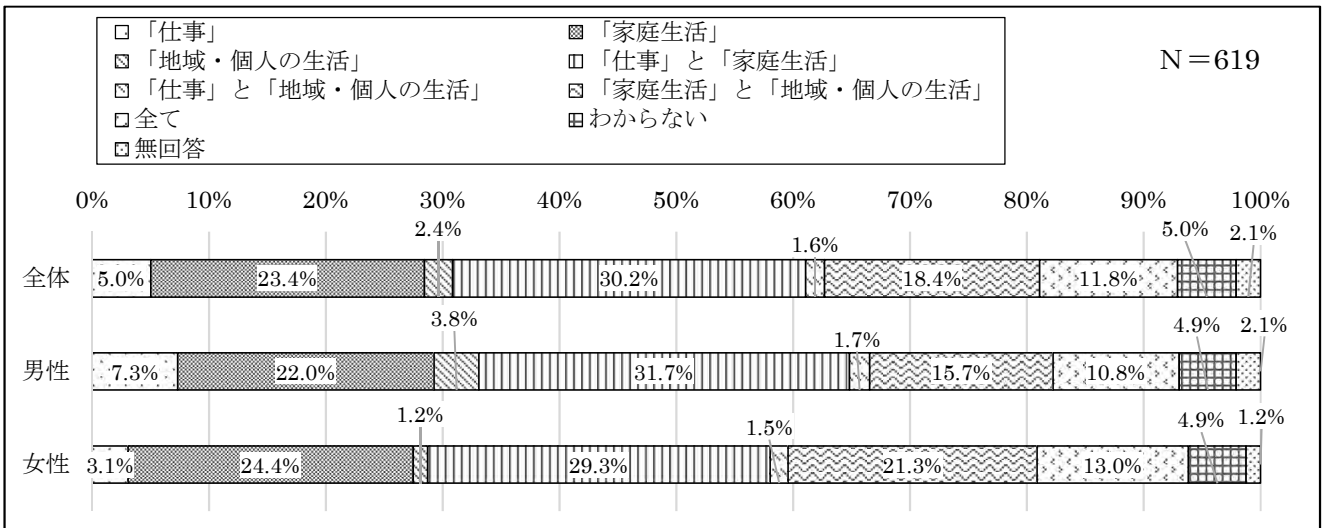
母親の回答で最も多かったのも「子どもとたくさん遊ぶ・スポーツをする・体験させる」で 59.0%、次いで「子どもに道徳心やマナー等を教える」が 15.4% となっており、男女で子育てやしつけで大切にしたいことに大きな差はないことが伺えます。

問18. 家族による介護が必要になった場合、主にどなたが行うのがよいと考えますか。



家族による介護が必要になった場合、全体及び男女別で見ても「性別に関わらず、家族が協力して行うのがよい」と答えた人が最も多くなっており、全体では83%となっています。

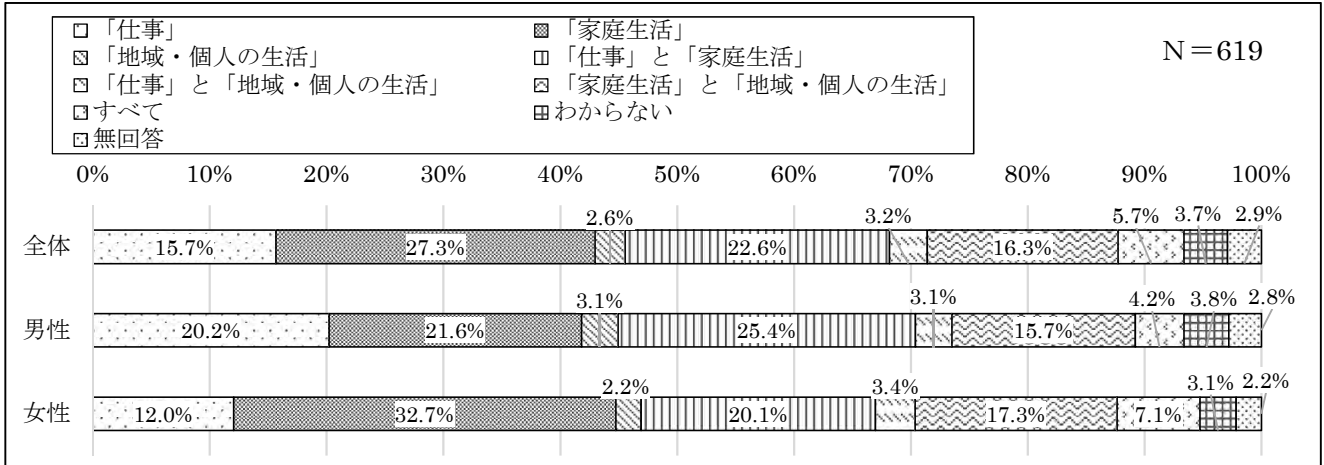
問19. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動、学習、趣味、付き合いなど）」の優先度について、あなたの希望に最も近いものを選んで下さい。



生活の中での優先度の希望については、「仕事と家庭生活」と答えた人が最も多く、30.2%という結果になりました。

また、男女別で最も多かったのは、男女共に「仕事と家庭生活」でしたが、「仕事」に関しては、女性より男性のほうが優先している人が多く、「家庭生活」に関しては、男性より女性のほうが優先している人が多くなっています。

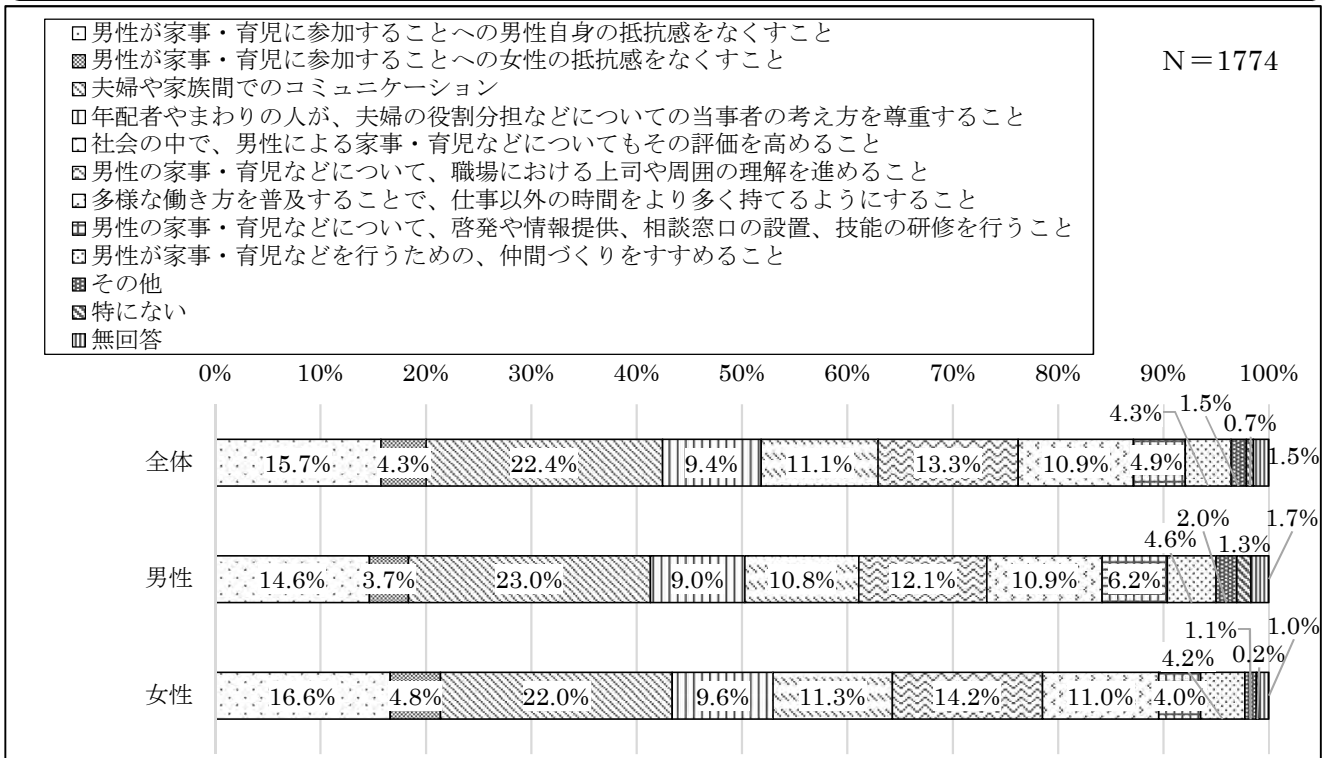
問 20. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度について、あなたの現状に最も近いものを選んで下さい。



生活の中での優先度の現状としては、全体では「家庭生活」を優先していると答えた人が最も多く 27.3%、次いで「仕事と家庭生活」を優先していると答えた人が 22.6%となっています。

また、男女別では、男性は「仕事と家庭生活」と答えた人が最も多く 25.4%、女性は「家庭生活」を優先していると答えた人が最も多く 32.7%となっています。

問 21. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

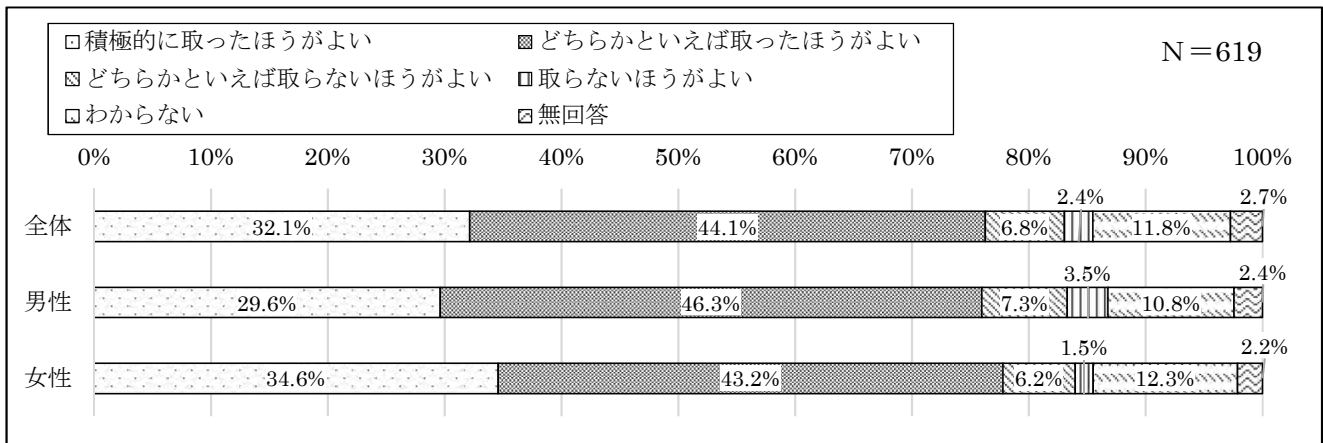


男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて、全体では「夫婦や家族間でのコミュニケーション」と答えた人が最も多く 22.4%、次いで「男性が家事・育児に参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと」が 15.7%となっています。

また、男女別でも同じく「夫婦や家族間でのコミュニケーション」、「男性が家事・育児に参加することへの男性自身の抵抗感をなくすこと」が回答の上位 2 項目となっています。

4. 就労・職業について

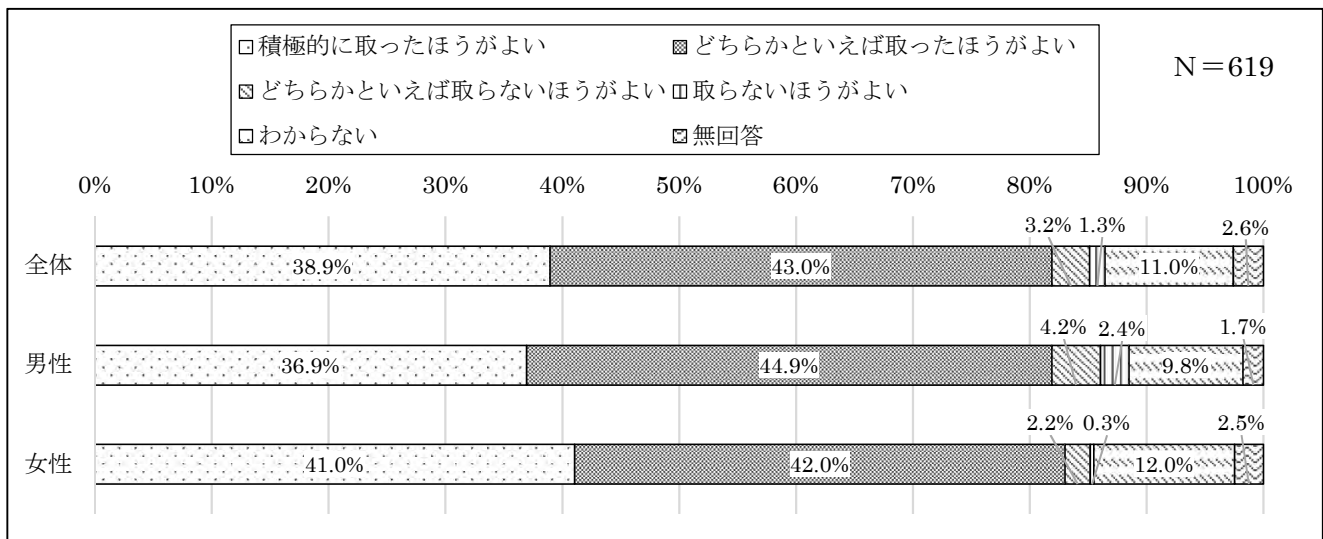
問 2 2. 男性が育児休業を取ることに、どのように思いますか。



男性が育児休業を取ることに、全体及び男女別で見ても、「どちらかといえば取ったほうがよい」と答えた人が最も多く 44.1%、次いで「積極的に取ったほうがよい」が 32.1% となっています。

また、男女別でみると、男性の育児休業について「積極的に取ったほうがよい」と回答した割合が男性より女性のほうが高くなっています。

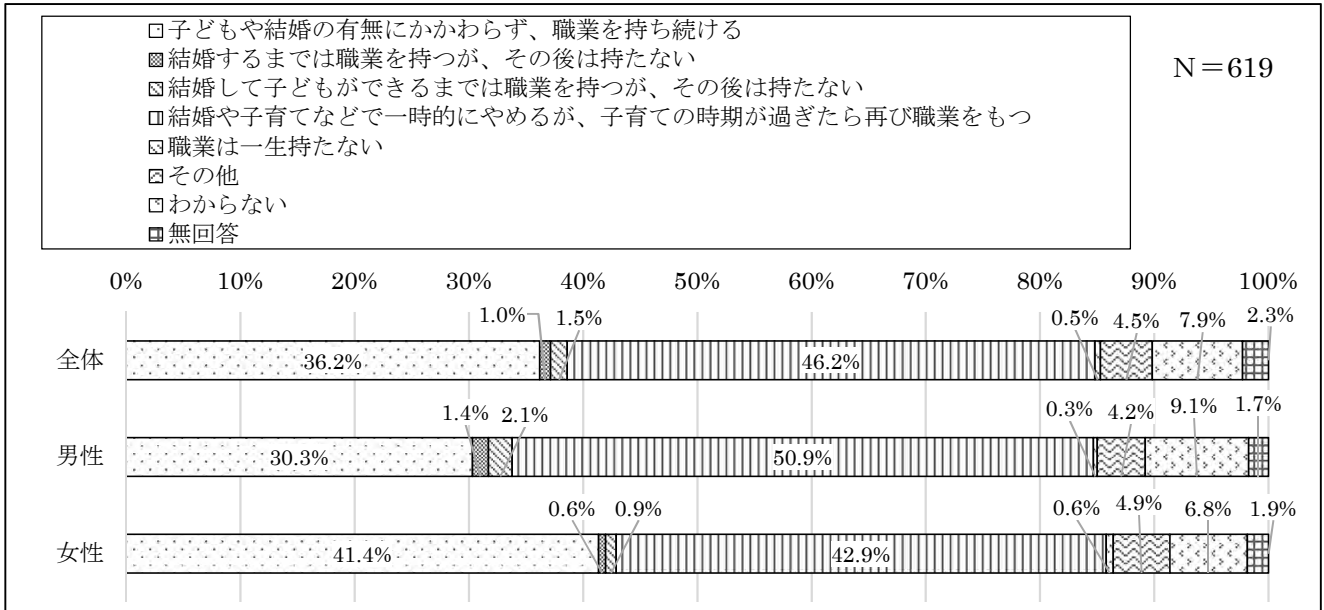
問 2 3. 男性が介護休業を取ることに、どのように思いますか。



男性が介護休業を取ることに、全体及び男女別で見ても、「どちらかといえば取ったほうがよい」と答えた方が最も多く 43.0%、次いで「積極的に取ったほうがよい」が 38.9% となっています。

また、男女別では、育児休業と同じく、男性の介護休業について「積極的に取ったほうがよい」と回答した割合が男性より女性のほうが高くなっています。

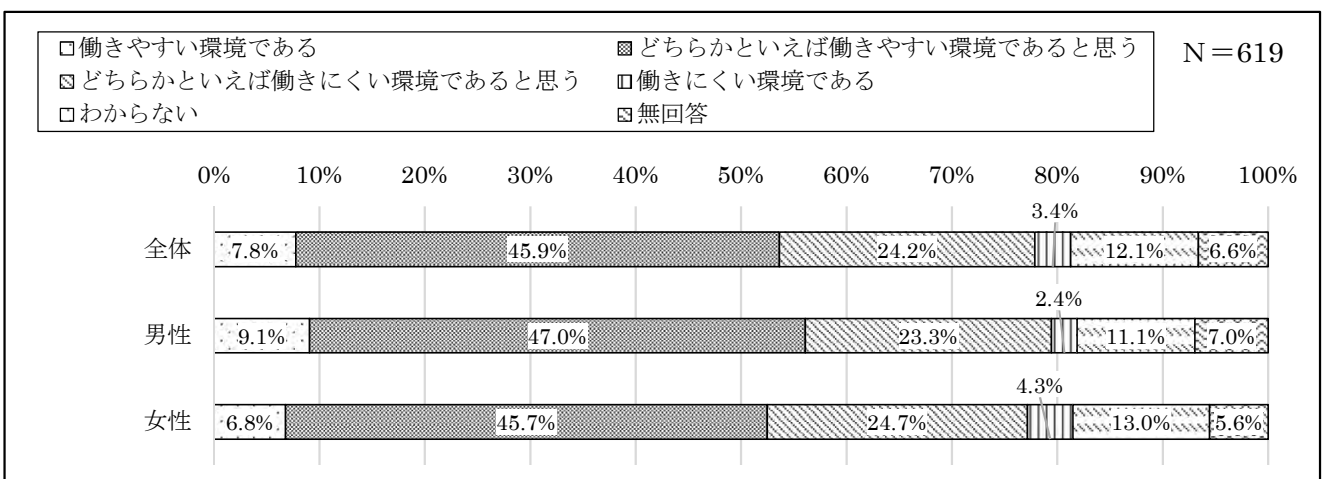
問 2 4. 女性の職業への関わり方について、あなたはどのような形がもっとも望ましいと思いますか。



女性が職業を持つことについて、「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」と答えた割合が最も高く 46.2% ですが、前回調査（平成 26 年度）と比較すると、13.8 ポイント減少しています。次いで「結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持ち続ける」が 36.2% で、前回調査（平成 26 年度）と比較すると 10.3 ポイント増加しています。

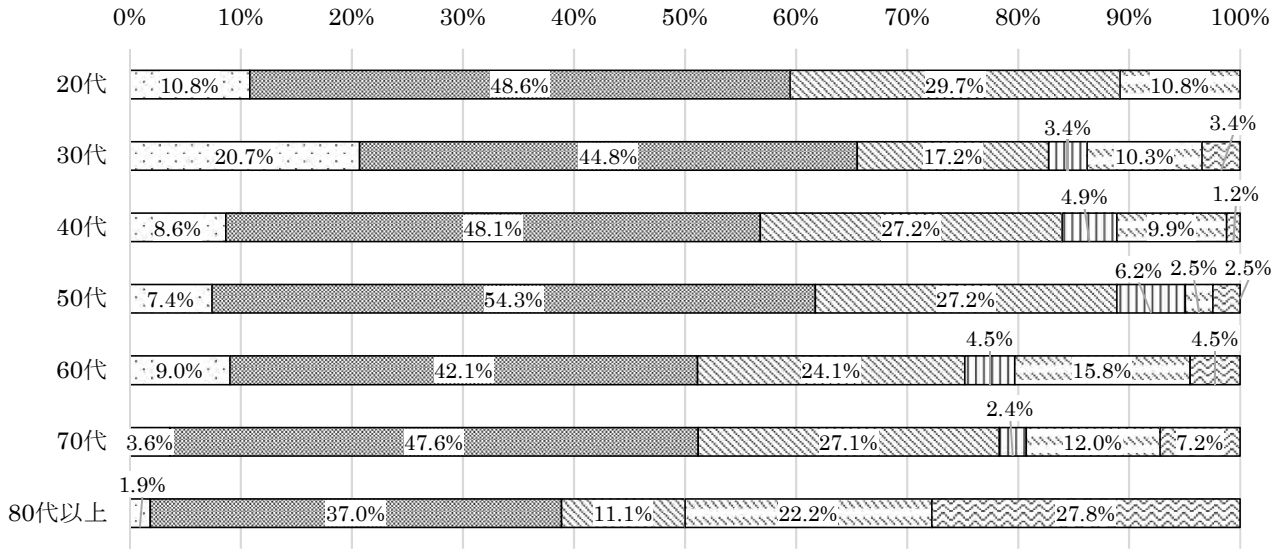
男女別では、男性は「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」と答えた人の割合が最も高くなっていますが、女性の回答率は「子どもや結婚の有無にかかわらず、職業を持ち続ける」と「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」と答えた割合が同率で最も高くなっています。

問 2 5. 働きたいと思う女性にとって、現在は、働きやすい環境であると思いますか。



年代別

- 働きやすい環境である
- どちらかといえば働きやすい環境であると思う
- どちらかといえば働きにくい環境であると思う
- 働きにくい環境である
- わからない
- 無回答



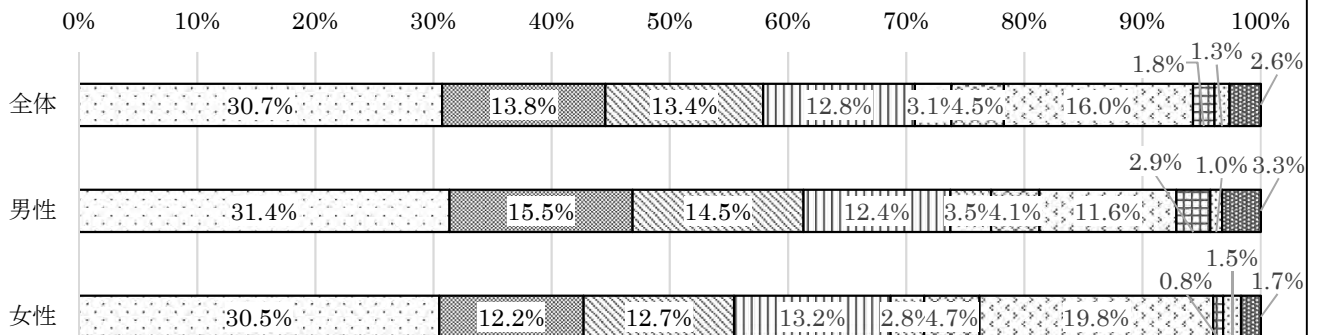
女性が働きやすい環境であるかについて、全体では、「どちらかといえば働きやすい環境であると思う」と答えた人の割合が最も高く45.9%、次いで「どちらかといえば働きにくい環境である」が、24.2%となっており、正反対の回答内容が上位2項目となりました。

年代別に見ると、全ての年代で「どちらかといえば働きやすい」と答えた人の割合が最も高くなっています。

問26. 女性が、出産、子育て、介護などの理由で仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

- 育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場の環境づくりを推進する
- 在宅勤務、フレックスタイム制（自由勤務時間制）などの柔軟な勤務制度を導入する
- 育児休業・介護休業の賃金の補てん、その他経済的支援を充実する
- 育児や介護のための施設やサービスを充実する
- 職場における女性への差別的待遇をなくすこと
- 女性が昇格・昇進できる制度と環境づくりを推進する
- 女性が働くことに対して家族や周囲が理解し、協力する
- わからない
- その他
- 無回答

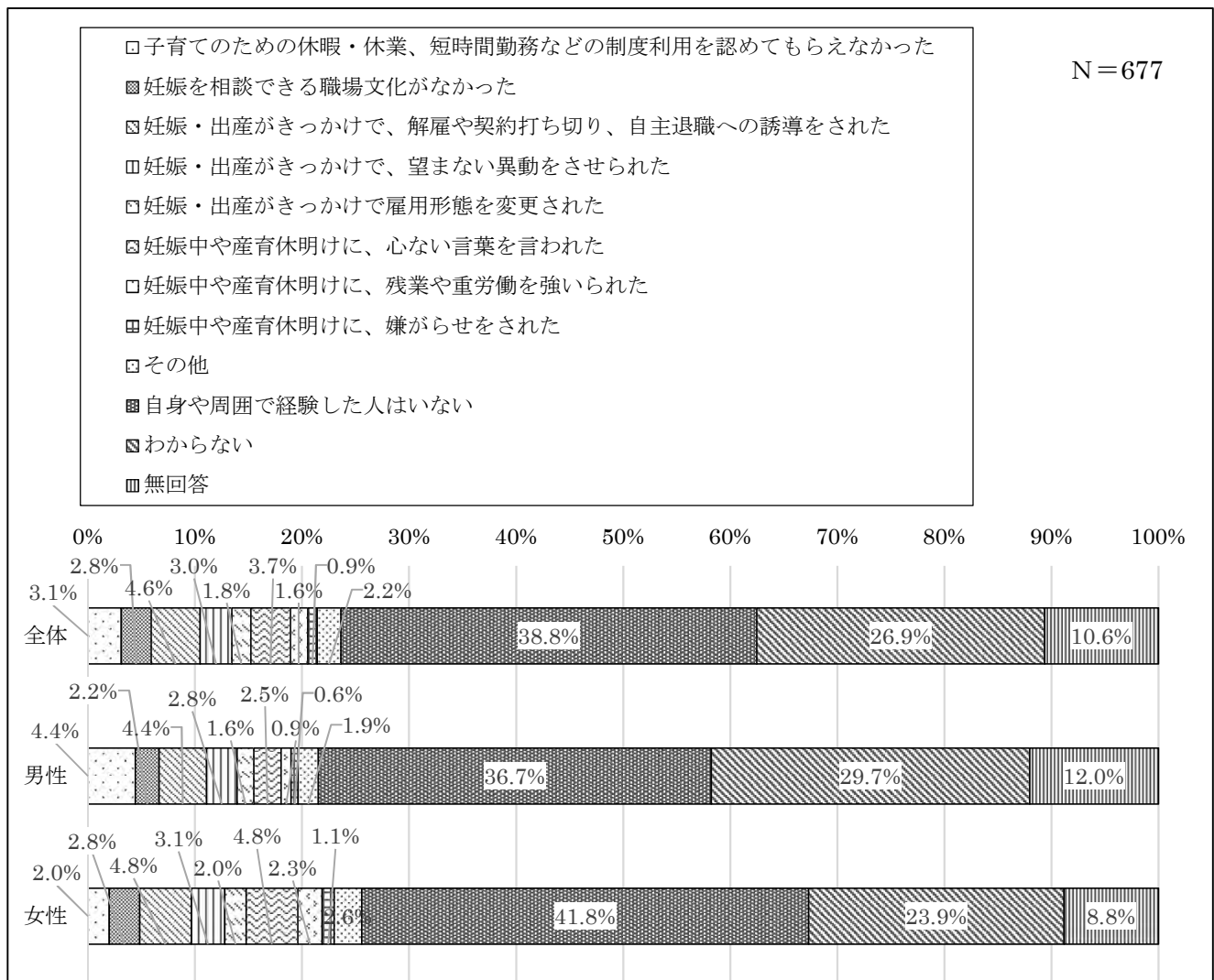
N = 1100



女性が仕事を辞めずに働き続けるには、どのようなことが必要かについて、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場の環境づくりを推進する」と回答した割合が最も高く 30.7%、次いで「女性が働くことに対して家庭や周囲が理解し、協力する」が 16.0%となっています。

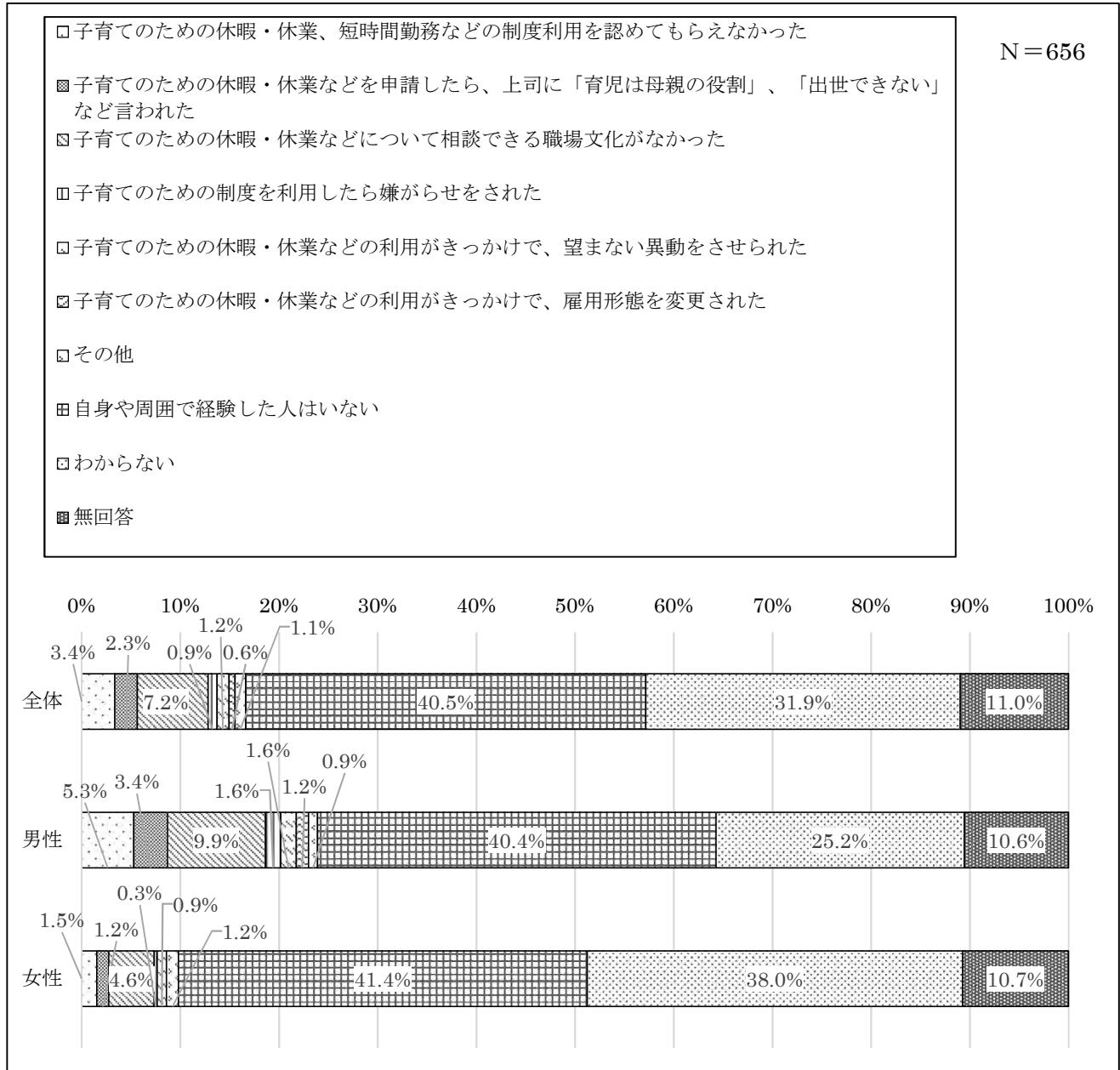
男女別で見ると、男女とも「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場の環境づくりを推進する」が最も高く、男性 31.4%、女性 30.5%でしたが、「女性が働くことに対して家庭や周囲が理解し、協力する」と回答した人の割合については、男性が 11.6%、女性が 19.8%と大きく差があります。

問 27. あなた自身やあなたの周囲で、女性が職場においてマタニティ・ハラスメントを経験したことがありますか。



マタニティ・ハラスメントの経験について、ほとんどの方が経験なしという回答ですが、経験した人のハラスメントの内容としては、「解雇や契約打ち切り、自主退職への誘導をされた」と答えた方が最も多く 4.6%となりました。

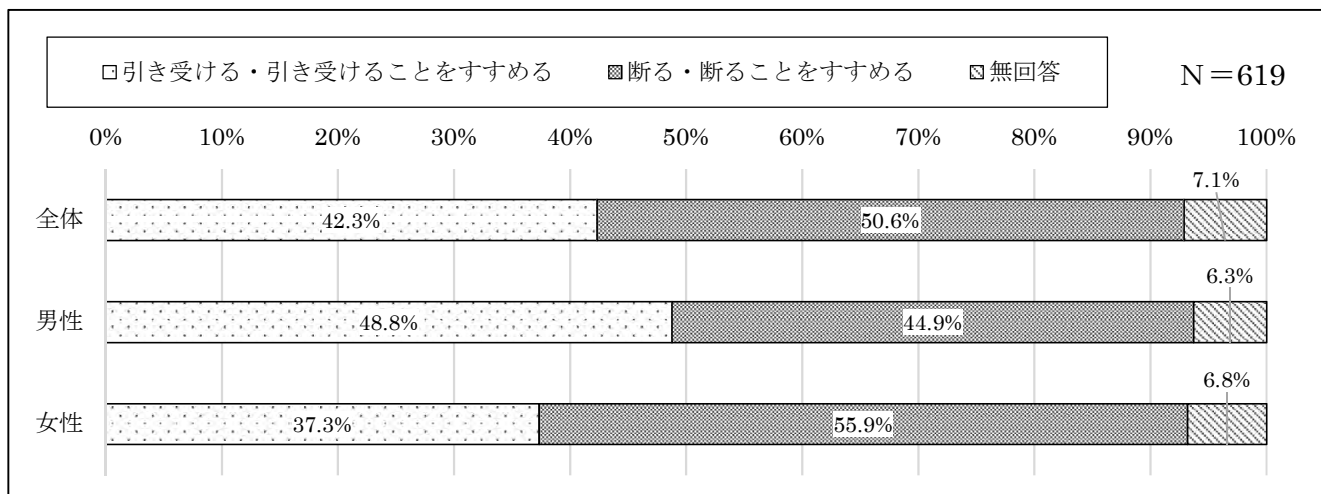
問 28. あなた自身やあなたの周囲で、男性が職場においてパタニティ・ハラスメントを経験したことがありますか。



パタニティ・ハラスメントの経験について、マタニティ・ハラスメントと同じく、ほとんどの方が経験なしという回答ですが、経験した人のハラスメント内容は「子育てのための休暇・休業などについて相談できる職場文化がなかった」と答えた人が最も多く、7.2%となりました。

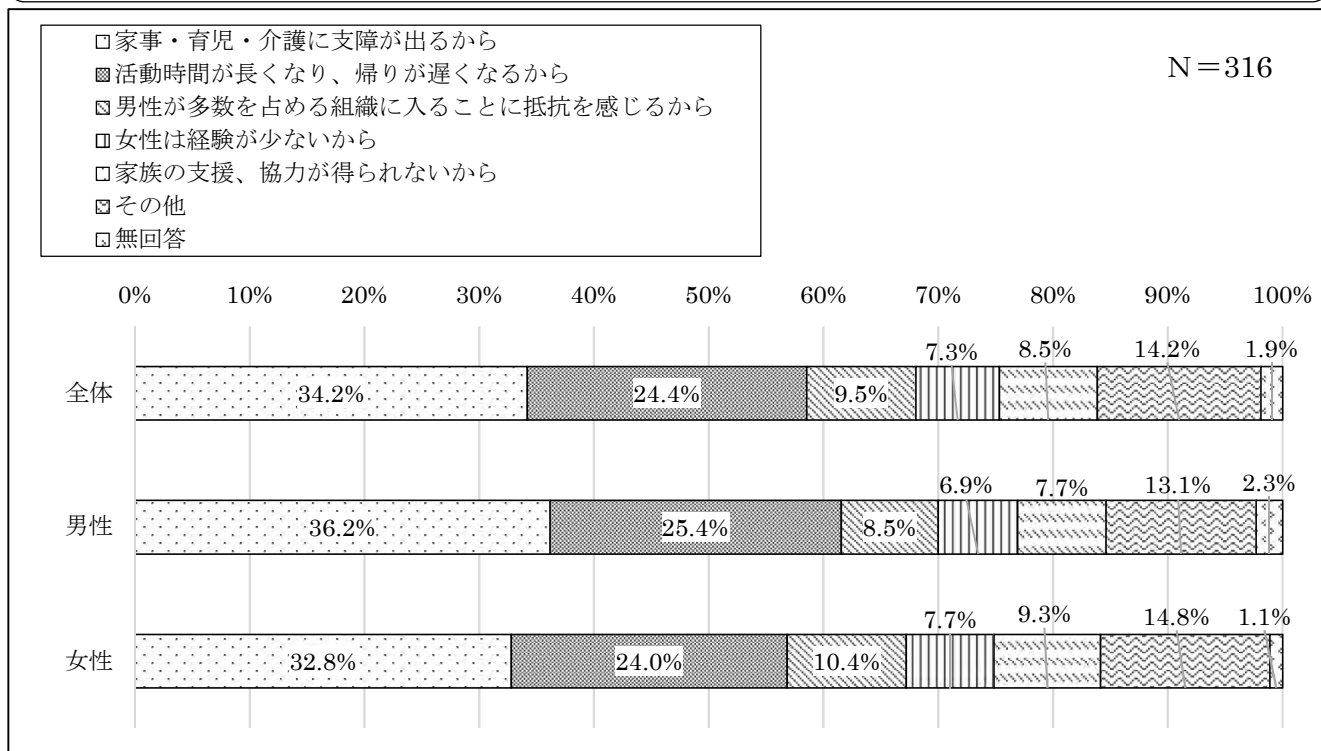
5. 女性の社会参画について

問29. 地域づくり組織、自治会長やPTA会長などの役職に、女性の方はあなた自身が、男性の方はあなたの妻などの身近な女性が推薦された場合、どうしますか。



女性の社会参画について聞いたところ、「断る・断ることをすすめる」と答えた人が50.6%と半数以上を占めています。男女別に見ると、男性では「引き受ける・引き受けることをすすめる」と回答した人が最も多く48.8%となっています。女性では、「断る・断ることをすすめる」と答えた人が最も多く55.9%となっており、男女で異なります。

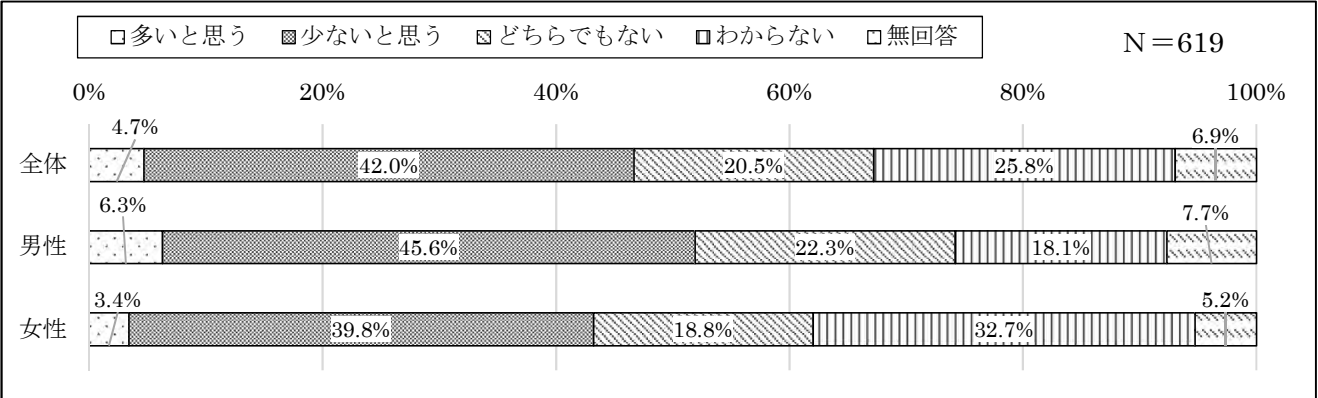
問30. (問29で「断る・断ることをすすめる」と答えた方にお聞きします。) その理由は、何ですか。



「断る・断ることをすすめる」と答えた人に理由を聞くと、全体では、「家事・育児・介護に支障が出るから」と答えた人が最も多く34.2%、次いで「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」が24.4%となっています。

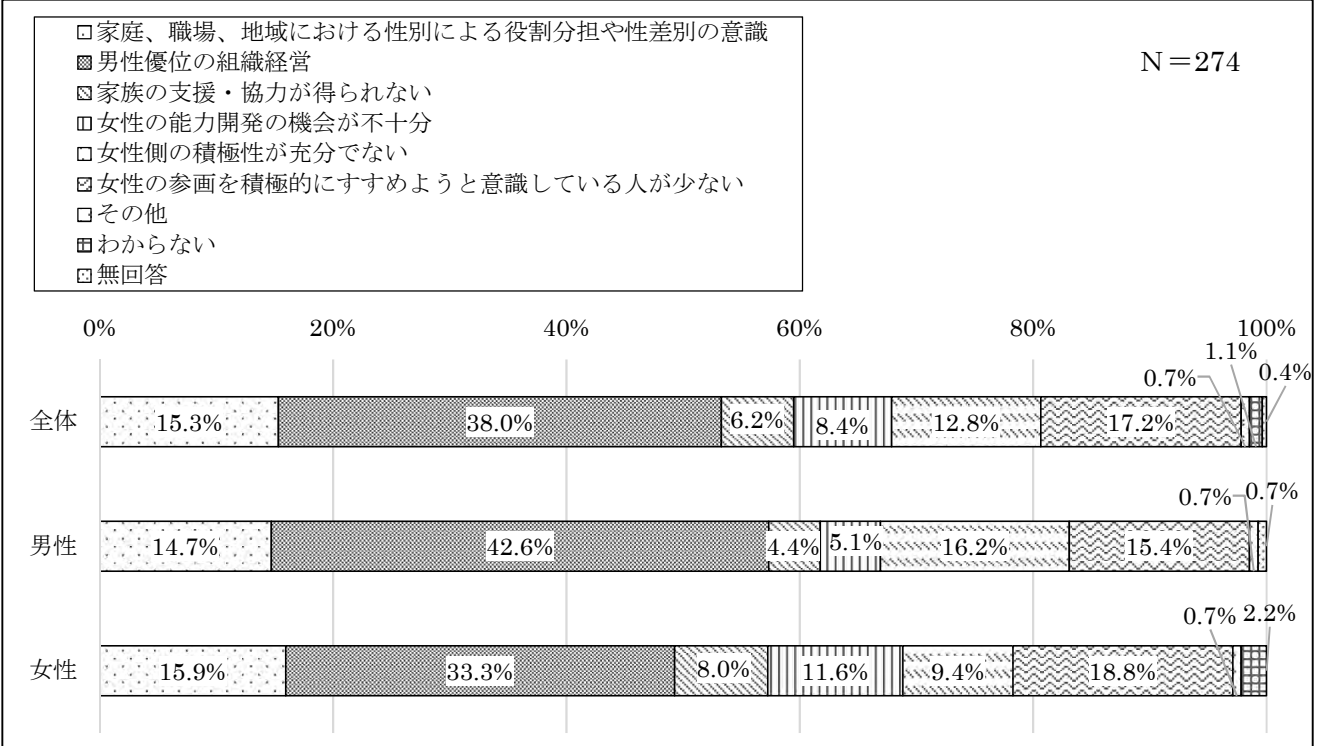
男女別では、「家事・育児・介護に支障が出るから」と答えた人の割合は、男性の方が高くなっています。

問3 1. あなたは、政治・行政・事業所や地域において、政策等の方針決定の場への女性の参画についてどのように思われますか



政治・行政・事業所や地域において、政策等の方針決定の場への女性の参画についてどう思うかについて聞いたところ、「少ないと思う」が42.0%で、次いで「わからない」が25.8%となりました。男女別では、「少ないと思う」と答えた人の割合が、女性より男性の方が高くなっています。

問3 2. (問3 1. で「少ないと思う」と答えた方にお伺いします。) 女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。



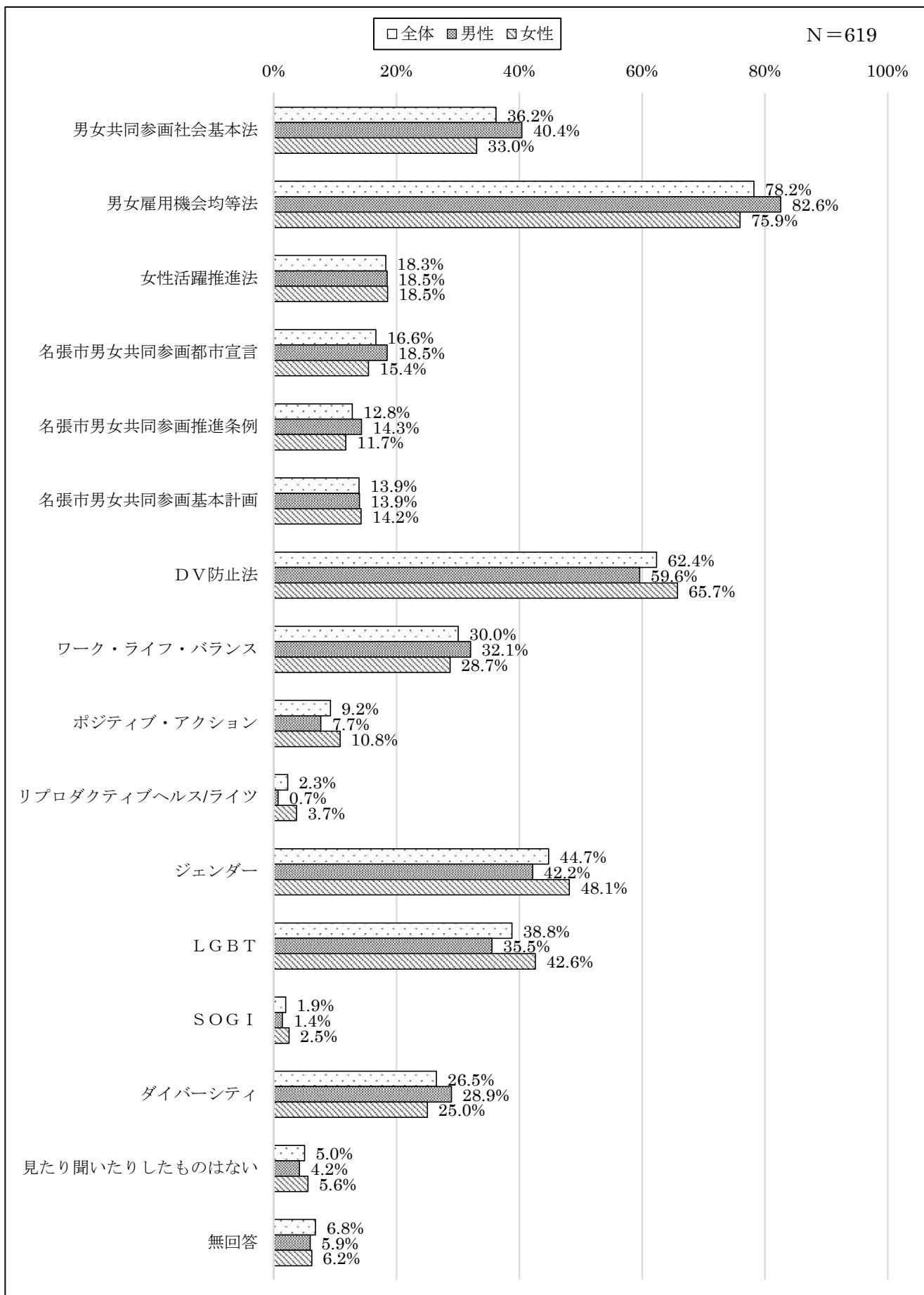
女性の参画が少ない理由を聞いたところ、全体では、「男性優位の組織経営」と答えた方が最も多く38.0%、次いで「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」が17.2%となっています。

男女別で見ると、「男性優位の組織経営」と答えた男性は42.6%ですが、女性は33.3%と男性に比べ低くなっています。

また、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」と答えた男性は15.4%ですが、女性は18.8%と男性に比べ高くなっています。

6. 男女の人権について

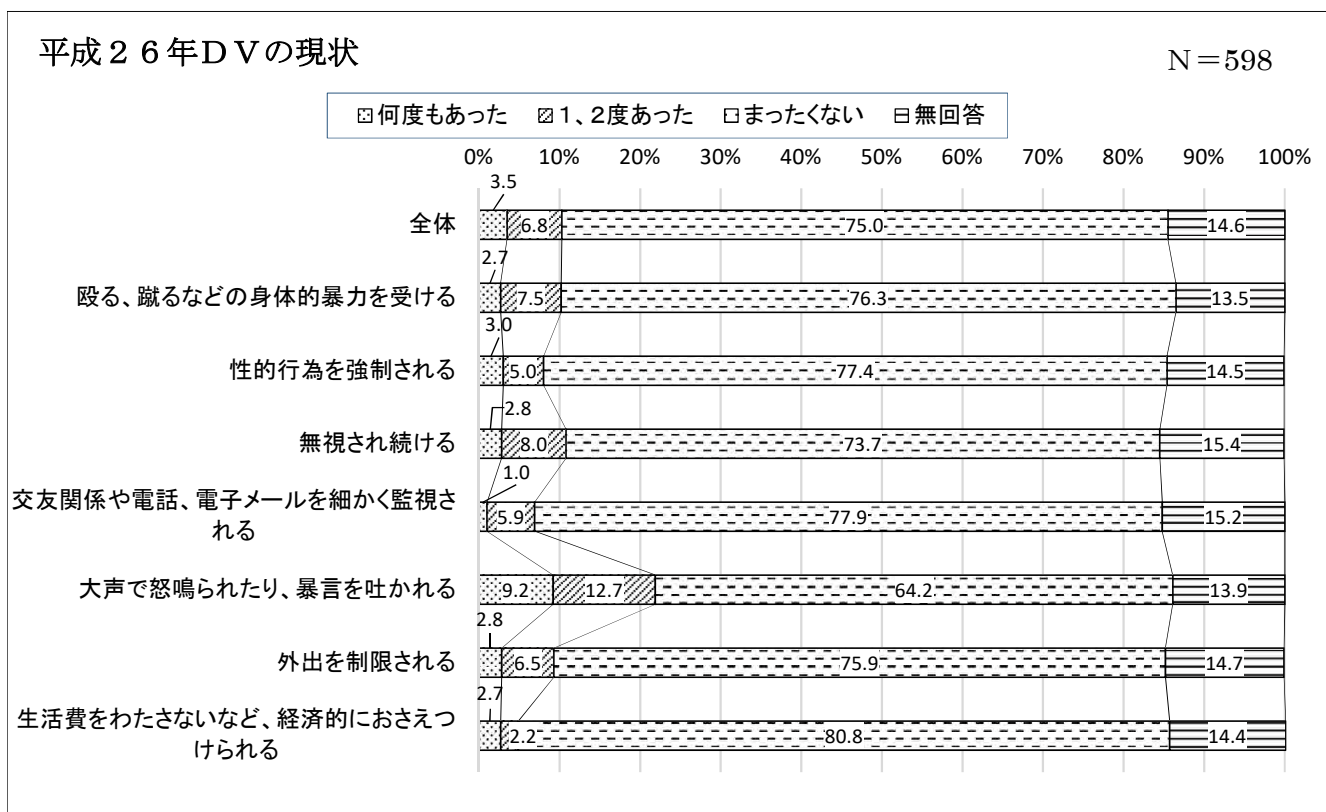
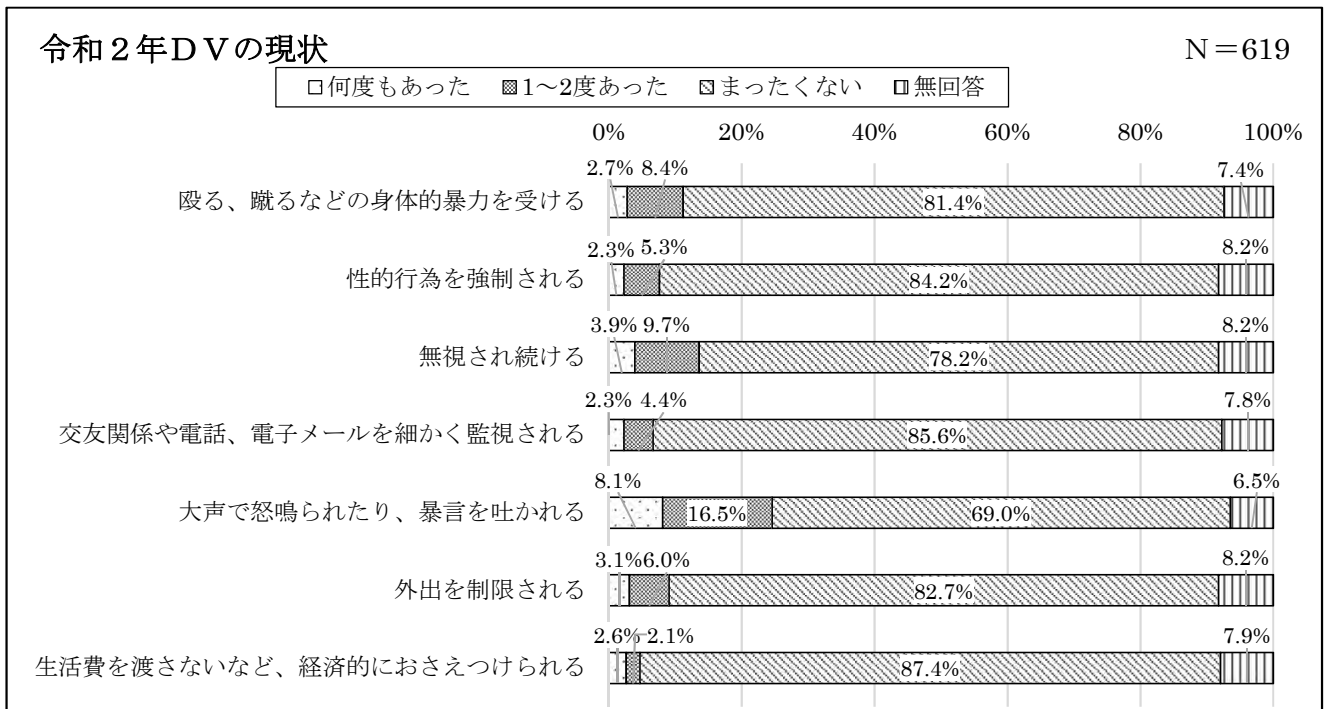
問33. 以下の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものすべてに○をつけてください。



男女共同参画に関する用語の認知度については、「男女雇用機会均等法」が、78.2%と一番高く、次いで「DV防止法」が、62.4%となっています。

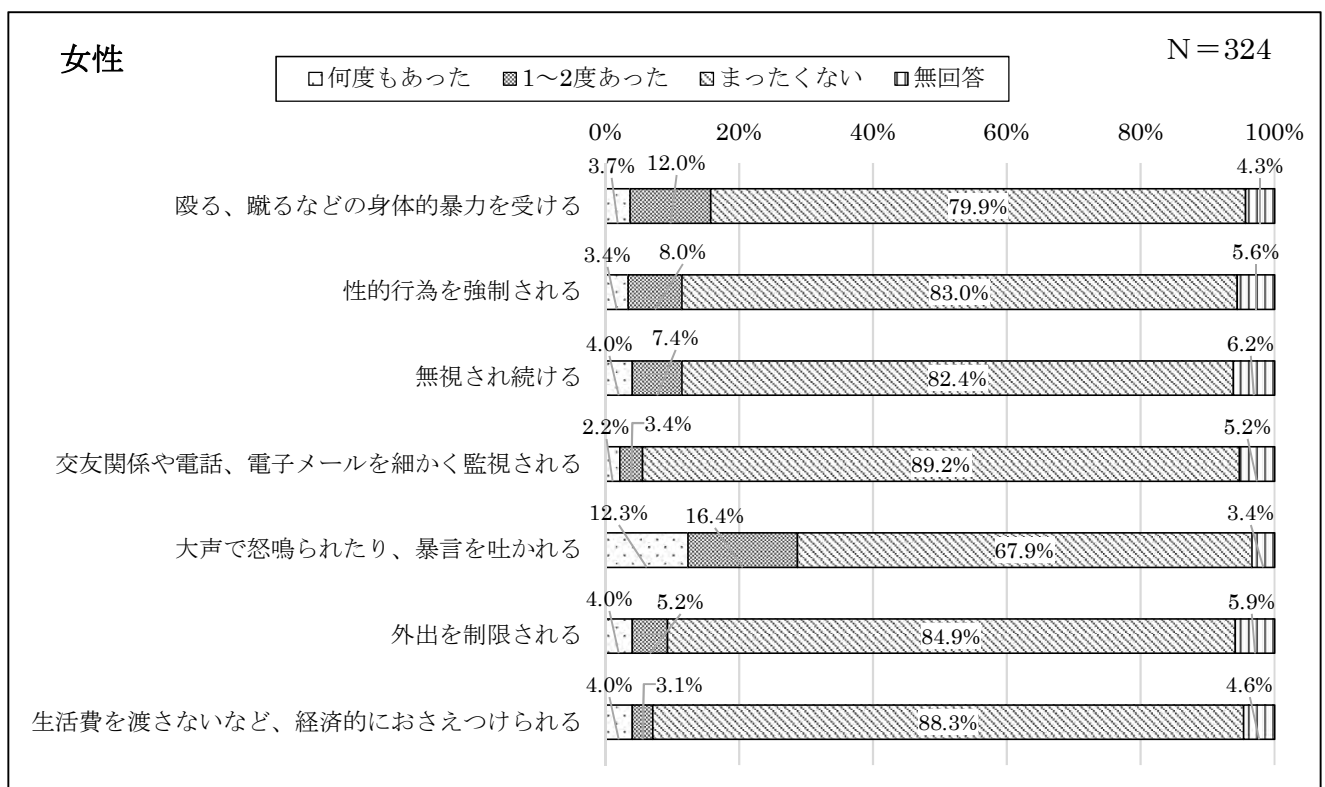
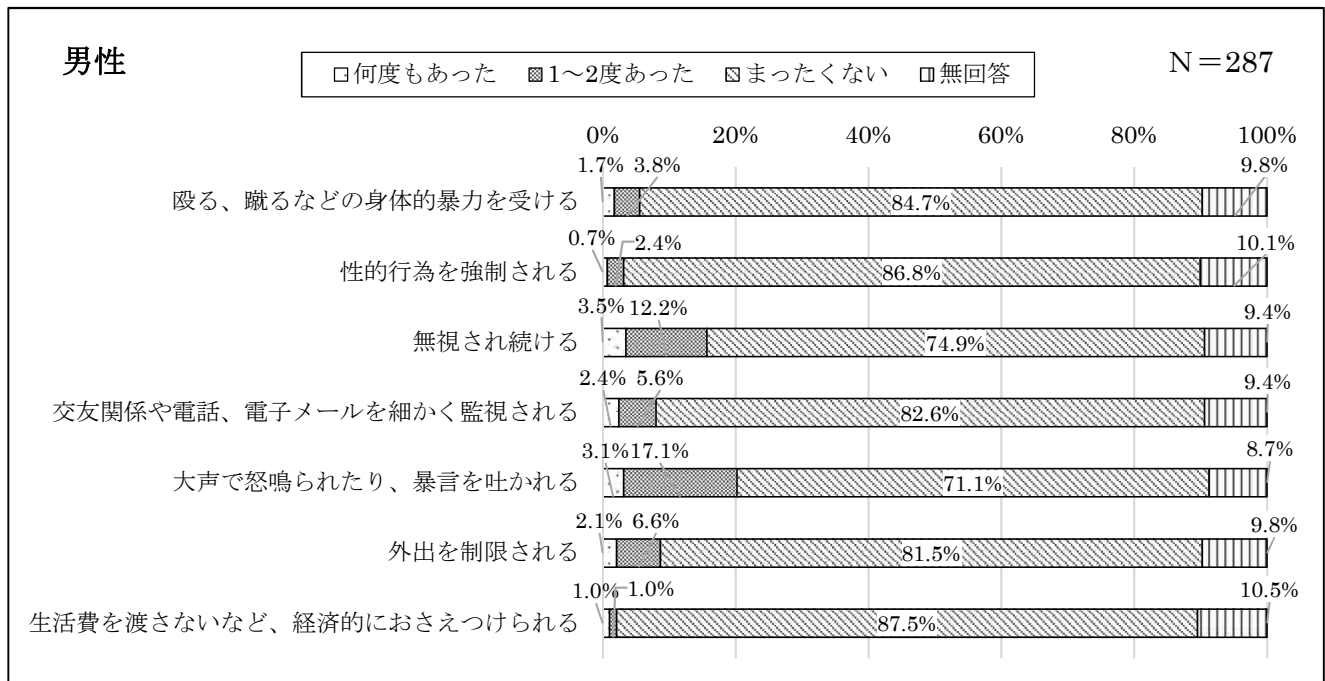
前回調査（平成26年度）の調査では、「見たり聞いたりしたものはない」または「無回答」と回答した人の割合は、15.1%でしたが、今回の調査で「見たり聞いたりしたものはない」または「無回答」と回答した人の割合は5.0%と、男女共同参画に関する言葉の認知度は大きく増加していることが伺えます。

問34. あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。



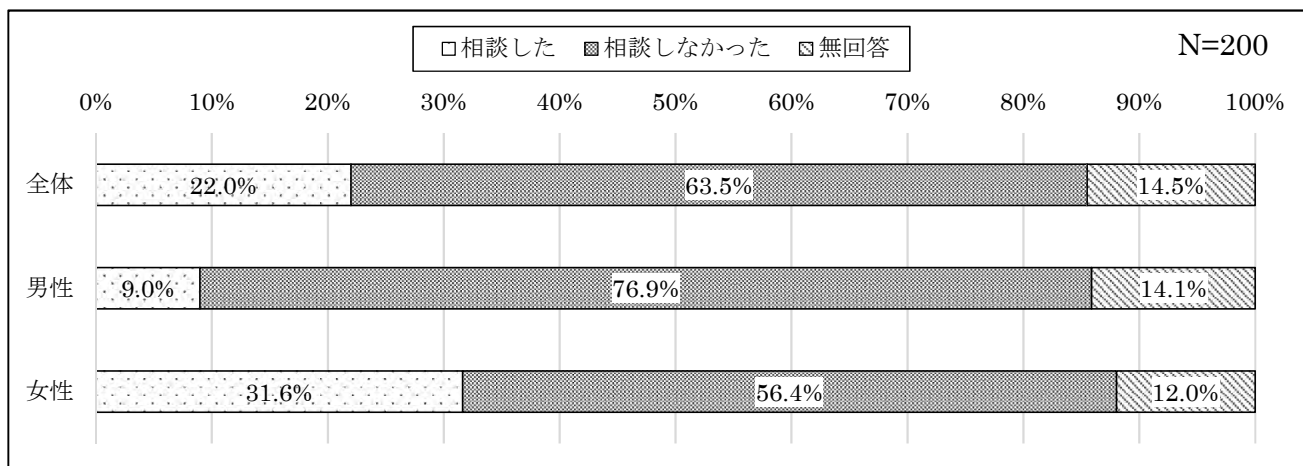
配偶者や恋人からDVを受けたことがあると回答した人（何度もあった+1、2度あった）の割合は、すべての項目で10%前後となっていますが、その中で最も多かったのが「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれる」で24.6%となっています。

前回調査（平成26年度）と比較すると、全体的にあまり変化がありませんでした。



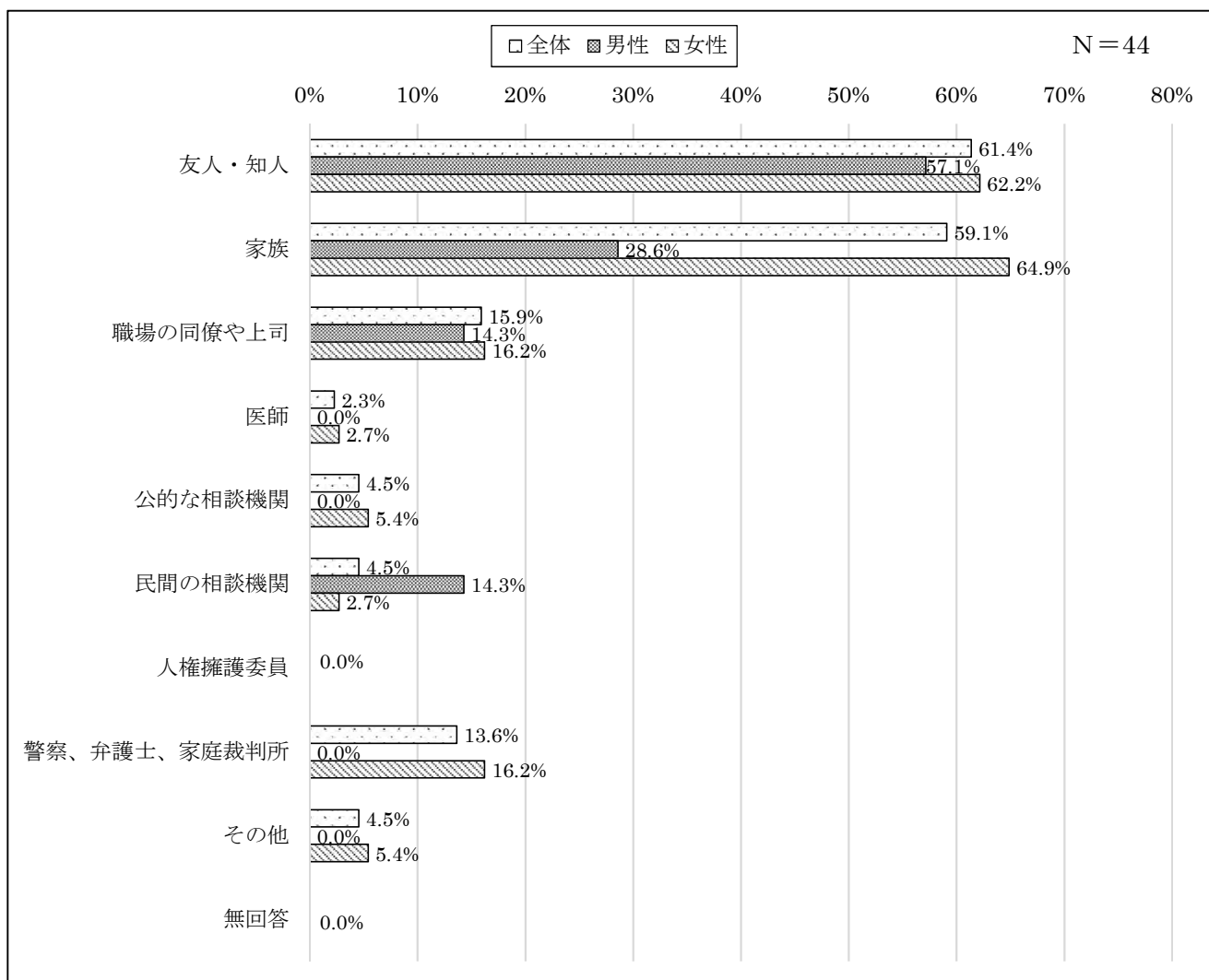
また、性別で見ると、配偶者や恋人からDVを受けたことがある（何度もあった+1、2度あった）と回答した人で最も多かったのは、男女共に「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれる」で男性20.2%、女性28.7%となりました。

問35. (問34で1つでも「何度もあった」、「1、2度あった」と答えた方にお伺いします。) あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。



誰かに打ち明けたり、相談したりしたかについて、「相談しなかった」と答えた人が最も多く63.5%となっています。また、男女別にみると男性の76.9%、女性の56.4%が相談しなかったと回答しています。

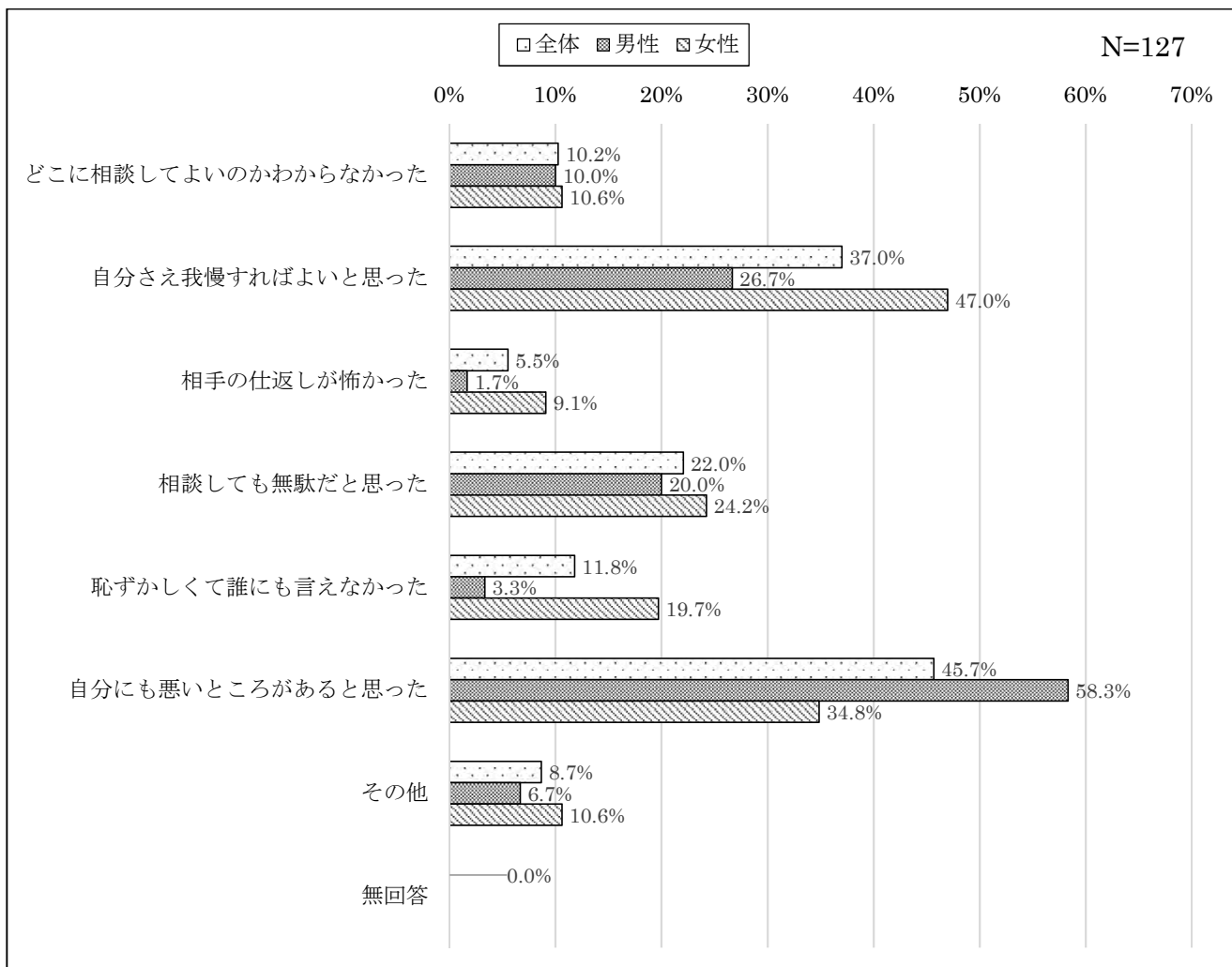
問36. (問35で「相談した」と答えた方にお伺いします。) 相談したのはどちらですか。



相談先については、「友人、知人」と答えた人が最も多く 61.4%、次いで「家族」が 59.1% となっています。また、男女別にみると、男性は「友人・知人」、「家族」の順となっていますが、女性は「家族」、「友人・知人」の順となっています。

問 3 7. (問 3 5 で「相談しなかった」と答えた方にお伺いします。)

相談しなかった理由は何ですか。



「相談しなかった」と答えた人にその理由について、「自分にも悪いところがあると思った」と答えた人が最も多く 46.0%、次いで「自分さえ我慢すればよいと思った」が 37.3% となっています。

男女別では、男性では「自分にも悪いところがあると思った」と答えた人が最も多く 58.3%、女性においては「自分さえ我慢すればよいと思った」と答えた人が最も多く 47.0% となっています。

男女共同参画に関する市民意識調査【調査票(名張市)】

「第2次男女共同参画基本計画」見直しに向けた市民意識調査へのご協力のお願い

平素は、名張市行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

現在、名張市では、「第2次名張市男女共同参画基本計画」(平成29年～令和9年)に基づき、男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいます。計画は、令和3年度に中間見直しをすることとなっており、このたび、皆さんの男女共同参画に関する意識等を把握し、計画見直しに反映させるため、アンケート調査を実施させていただくこととなりました。

今回の調査は、本市に住所のある20歳以上の方から無作為に抽出した1,500人を対象に実施します。ご記入いただいた内容については統計的に集計・分析するものであり、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用したりすることは一切ありません。

お忙しいところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和2年4月 名張市長 亀井利克

- 調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。
- 調査票は、切り離すことなく3つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに、**5月15日(金)までに、投函してください。**

※ アンケートには、封筒のあて名の方(ご本人)がご回答ください。ご本人が何らかの理由で、記入いただけない場合は、代理の方がご本人の回答を記入くださいますようお願いいたします。

※ 「その他」の項目を選択いただいた場合は、()内に具体的な内容を記載してください。

※ 答えにくい質問には無理にお答えいただかなくても結構です。

【お問い合わせ先】名張市 地域環境部 人権・男女共同参画推進室 ☎ 63-7559(直通)

1 あなた自身のことについて

問1. あなたの性別を教えてください。(ご自身が認識する性でお答えください)

1. 男性 2. 女性 3. どちらともいえない、または答えたくない

問2. あなたの年齢を教えてください。(令和2年4月1日現在)

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳代 7. 80歳代以上

問3. あなたの職業を教えてください。(産前・産後休暇、育児休業中の人も働いていることとしてご回答ください)

1. 正規従業員 2. 非正規従業員(フルタイム) 3. 非正規従業員(短時間)
4. 派遣社員・契約社員 5. 自由業、自営業(家族従業者を含む) 6. 会社などの役員
7. 家事専業・家事手伝い 8. 学生 9. 無職 10. その他()

問4. あなたが現在生活しているご家庭の家族構成を教えてください。

1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯世帯(夫婦と子、夫婦と親、親と子など)
4. 三世帯世帯(祖父母と夫婦と子、親と子と孫など) 5. その他()

2 男女平等意識・男女共同参画について

問5. あなたは、次にあげるA～Hの分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。
A～Hのそれぞれについて1つずつ選んで○をつけてください。

	優遇されている 男性のほうが非常に	優遇されている 男性のほうが どちらかといえば	平等である	優遇されている 女性のほうが どちらかといえば	優遇されている 女性のほうが非常に	わからない
A 家庭のなかで	1	2	3	4	5	6
B 職場のなかで	1	2	3	4	5	6
C 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
D 自治会やNPOなどの地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
E 社会通念や習慣、しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
F 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
G 政治(政策決定)の場で	1	2	3	4	5	6
H 社会全体を通して	1	2	3	4	5	6

問6. あなたは「男女共同参画」という言葉を知っていましたか。

1. 知っていた 2. 聞いたことがあったが内容は知らなかった 3. 知らなかった

※ 男女共同参画社会：性別にかかわらず能力や個性を發揮できる社会。 男女共同参画社会基本法第2条では、「男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」としています。

問7. あなたは「名張市男女共同参画センター」をご存知ですか。

1. 利用したことがある 2. 名前は知っているが、利用したことはない 3. 知らない

↓
 (問7)で「1.利用したことがある」に○をつけた方にお聞きします

問8. どのように利用しましたか。(あてはまるもの全てに○をつけてください)

1. センター主催の催し・講座 2. センター以外が主催する催し・講座
 3. 自主的なサークル活動の場 4. 印刷機の利用 5. 図書コーナーの利用
 6. 各種相談を利用した 7. その他(具体的に：
)

問9. あなたは「名張市男女共同参画センター」のホームページをご覧になったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

「名張市男女共同参画センター」ホームページアドレス <https://www.emachi-nabari.jp/j-kouryu/>

3 家庭生活について

問10. あなたは結婚していますか。

1. 既婚（事実婚を含む） 2. 離別または死別 3. 未婚

「2. 離別または死別」
または、「3. 未婚」に○
をつけた方は（問13）へ

（問10）で1「既婚（事実婚を含む）」に○をつけた方は（問11）と（問12）にお答えください

問11. あなたの配偶者の就業形態をお答えください。次の中から1つ選んで○をつけてください。

（産前・産後休暇、育児・介護休業等を取得中の方も働いているものとお考えください）

1. 正規従業員 2. 非正規従業員（フルタイム） 3. 非正規従業員（短時間）
4. 派遣社員・契約社員 5. 自由業、自営業（家族従業者を含む） 6. 会社などの役員
7. 家事専業・家事手伝い 8. 学生 9. 無職 10. その他（具体的に： ）

問12. あなたは家庭では、A～Oのそれぞれについて、夫婦の間でどのように行っていますか。
A～Oのそれぞれについて1つずつ選んで○をつけてください。

	ほとんど妻が している	妻が中心だが 夫も手伝う	平等に分担して いる	夫が中心だが 妻も手伝う	ほとんど夫が している	夫婦ともほとんどし ない（親、子ども、そ の他の人がしている）	その他（該当する 家事などが無い等）
A 食事の支度	1	2	3	4	5	6	7
B 食事の後片付け	1	2	3	4	5	6	7
C 家の掃除	1	2	3	4	5	6	7
D 入浴の準備および風呂場の掃除	1	2	3	4	5	6	7
E 日常の買い物	1	2	3	4	5	6	7
F 日常の家計管理	1	2	3	4	5	6	7
G 日常のごみ捨て	1	2	3	4	5	6	7
H 洗濯	1	2	3	4	5	6	7
I 高額な商品の購入決定	1	2	3	4	5	6	7
J 生活費の確保（工面）	1	2	3	4	5	6	7
K PTAや地域の行事参加	1	2	3	4	5	6	7
L 親戚とのつきあい	1	2	3	4	5	6	7
M 近所とのつきあい	1	2	3	4	5	6	7
N 育児（子どもの世話、教育、しつけ等）	1	2	3	4	5	6	7
O 高齢者や障がい者などの介護・介助	1	2	3	4	5	6	7

問13. あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。

1. いる 2. いない

「2. いない」に○をつけた方は
(問17)へお進みください

「1. いる」に○をつけた方は (問14) へ

問14. あなたのお子さんは、
現在、次のどれにあてはまりますか。
(あてはまるもの全てに○)

1. 乳児・就学前の幼児
2. 小学生
3. 中学生以上の学生
4. その他

「1. 乳児・就学前の幼児」に○をつけた方は (問15) へ

問15. 平日の日中、その乳児・就学前の幼児を主に誰が養育
していますか。(その乳幼児からみた続柄でお答えください)

1. 父親 2. 母親 3. 両親以外の同居の家族
4. 別居の祖父母、親戚等 5. 近所の人、親等の友人や知人
6. 保育所、託児所などの保育施設
7. その他(具体的に: _____)

「2. 小学生」に○をつけた方は (問16) へ

「3. 中学生以上の学生」
「4. その他」に○をつけた方は (問17) へ

問16. 子育てやしつけに関する次の事項うち、あなたが父親の場合は、何に最も力を入れたいですか、あなたが母親の場合は、父親にどんなことに最も力を入れてほしいですか。 ※いずれか1つに○をつけてください

1. 子どもとたくさん遊ぶ・スポーツをする・体験させる 2. 子どもの相談相手になる
3. 家事や子どもの身のまわりの世話を積極的にする 4. 子どもの学力を身につけさせる
5. 子どもに道徳心やマナー等を教える 6. パートナーの話をよく聞く、ねぎらう

問17. 家事(掃除・洗濯・食事の支度・食事の後片付け等)は、どのように行うべきだと思いますか。

1. 主に男性が行う 2. 主に男性が行い、女性も一部手伝う 3. 男性、女性が分け合って行う
4. 主に女性が行い、男性も一部手伝う 5. 主に女性が行う 6. その他
(_____)

問18. 家族による介護が必要になった場合、主にどなたが行うのがよいと考えますか。

1. 夫や息子など主に男性が行うのがよい 2. 妻や娘など主に女性が行うのがよい
3. 性別にかかわらず、家族が協力して行うのがよい 4. わからない
5. その他(具体的に: _____)

問19. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合いなど)」の優先度について、あなたの希望に最も近いものを、次の中から1つ選んで○を付けてください。

1. 「仕事」を優先したい 2. 「家庭生活」を優先したい 3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 7. いずれも優先したい 8. わからない

問20. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合いなど)」の優先度について、あなたの現状に最も近いものを、次の中から1つ選んで○を付けてください。

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. いずれも優先している
8. わからない

問21. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から選んで○をつけてください。(○は、いくつ選んでも構いません)

1. 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること
6. 男性の家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
8. 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9. 男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること
10. その他(具体的に:)
11. 特に必要なことはない

4 就労・職業について

問22. 男性が育児休業を取ることに、どのように思いますか。

1. 積極的に取ったほうがよい
2. どちらかといえば取ったほうがよい
3. どちらかといえば取らないほうがよい
4. 取らないほうがよい
5. わからない

問23. 男性が介護休業を取ることに、どのように思いますか。

1. 積極的に取ったほうがよい
2. どちらかといえば取ったほうがよい
3. どちらかといえば取らないほうがよい
4. 取らないほうがよい
5. わからない

問24. 女性の職業への関わり方について、あなたはどのような形がもっとも望ましいと思いますか。

1. 結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を続ける
2. 結婚するまでは職業を持つが、その後は持たない
3. 結婚して子どもができるまでは職業を持つが、その後は持たない
4. 結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ
5. 職業は一生持たない
6. その他(具体的に:)
7. わからない

